令和９(2027)年度

経済・経営学演習
経済工学演習

募　集　要　項

九州大学経済学部

＜　目　次　＞

１．はじめに ・・・

1. はじめに

2006 年度に九州大学経済学部が導入したカリキュラムは、全国の主要大学のカリキュラムの研究を通じてその良き部分を取り入れ、なおかつ九州大学経済学部に蓄積されてきた独自の研究成果が反映されるように工夫された、オリジナルで体系的なカリキュラムです。

このカリキュラムは、基本科目の体系的配置、大学院への進学の容易化(学部・学府一貫教育プログラム)などのほか、3 年次以上の演習（ 以下 「ゼミ」 と表記 ）が必修科目となっている点に、大きな特色があります。また 2007 年度からのＧＰＡ制度の全学的導入にあわせて、経済学部の修学指導体制も強化され、3-4 年次の学生はゼミの指導教員が学生の修学や大学生活上の指導を担当することになりました。

これらのシステムにより、「経済学部にとりあえず入学したが、経済学になかなか興味を見出せない」「友人と何かに一緒に取り組んで頑張ってみたいがそのような機会がなかなか無い」 など、これまでの経済学部で先輩の一部が直面してきた問題を、学生諸君と教員が一緒に解決していくことが期待されます。

Seminar とは、19 世紀にドイツの大学で導入されて以来（ そのためセミナーではなくゼミナールと呼びます)、全世界で広範に採用されている大学教育の普遍的な実施形態の一つです。最近は「社会性」や「問題発見や解決スキル」を重視する企業が多く、大学での少人数教育がますます重視される傾向にあります。九州大学経済学部のゼミは、教員１名に対して学生が 1 学年約 10 名以下の密度の高い少人数教育となります。こうした性格から、同じ「単位」という成績認定方法を採っていますが、通常の講義とゼミとでは、その意味内容が大きく異なります。「どのゼミに入るか」によって、「大学で何を学んだか？」のみならず「大学で何をしたか？」が決まるといっても過言ではありません。

皆さんは、この募集要項に記載された「2. ゼミ応募の際の注意」や「3. ゼミ募集スケジュール」などを熟読のうえ、「6. 教員別ゼミ募集要項」でできる限り多くのゼミを比較検討し、経済学部 HP に掲載される「演習参加申込書」をダウンロードのうえで応募してください。希望するゼミへのチケットが入手できることを祈念しています。

2. ゼミ応募の際の注意

(1) 両学科共通の注意事項

a. ゼミは必修

経済学部のカリキュラムでは、高年次の演習(経済･経営学演習、経済工学演習)は必修科目です。経済･経営学科では8単位、経済工学科では4単位を取得しないと卒業できません。4月になって新年度の演習の履修登録が可能となるのは、募集要項の3で示すスケジュールに従ってゼミに応募し、事前に指導教員から入ゼミを許可された人だけです。従って、皆さんは必ず本冊子を熟読のうえ、手続きに従ってゼミへの受入内諾を各担当教員から得てください。

b. ゼミの人数

ゼミには、学年毎の主演習としての参加可能人数の上限が設定されており、経済･経営学科では第1次募集が10名、第2次募集が1次募集での受講決定数と合わせて10名、経済工学科では第1次募集が約10名、第2次募集が第1次募集での受講決定数と合わせて約10名となっています。

従って受講希望者がその人数を越えた場合には、演習参加申込書による選抜が必ず行なわれることになります。また、受講希望者が上記以下の場合でも、申込者が一定数に達した演習では選抜が実施されます。

c. ゼミの募集は第１次、第２次の２回に分けて行われます

第１次募集時にはゼミを１つ選び、「演習参加申込書」を１枚提出します。第２次募集時にはゼミを２つ選び、「演習参加申込書」を２枚（第１希望および第２希望）を提出します。

d. 4年次以降から演習に参加する場合

4 年次からゼミへの参加を希望する学生は、3-4 年次が別の時間帯に設定され演習内容が異なるゼミもありますので、「演習参加申込書」の所定欄に、参加を希望する演習が、①3 年次を対象とするものか、②4 年次を対象とするものかについて必ず記入してください。

e. 複数のゼミへの参加申込み

複数のゼミを受講することも可能です。

① 新3年生：「3.ゼミ募集スケジュール」に示す第1次および第2次募集で、まず自分の専攻する学科の中から、自分にとって主となる演習(＝主演習)に応募してください。主演習の結果発表後、3 月以降に参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。（教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。）

② 新4年生：既に3年次で演習を受講している学生が、4年生になってから「副演習」に応募することも可能です。その場合、主演習の結果発表後の 3 月以降に、参加を希望する副演習の担当教員へ直接相談のうえ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。（教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。）

なお、「副演習」に関しては、自分が所属する学科とは異なる学科の演習に応募することも可能です。それぞれのゼミが「副演習」として応募可能かどうかは、第 2 次募集の採用結果を掲示する際に、学年別に掲示します。（副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご留意ください。）

f. 高年次で留学を希望する場合

高年次において半年または１年間、海外留学する場合、「演習科目受講願」を学務課（経済担当）にて入手し、記入のうえ担当教員に提出し、教員の了承が得られた場合のみ演習への申し込みができます。

(2) 個別の注意事項

a. 経済・経営学科の皆さん

① 「主演習」による「系」の自動決定:経済・経営学科生は、今回のゼミ募集で受入れが決まった「主演習」の担当教員が属する「系」に従って、「経済分析」「産業分析」「企業分析」の三つの「系」への配属が自動的に決まります(『学生便覧』参照)。所属する「系」ごとに、卒業に向け履修すべき「選択必修科目」が異なりますので、履修の際には十分に注意してください。

② 4 年次で主演習を変更する場合: 3 年次の主演習参加により決まった「系」は卒業まで動かせません。ただし、4 年次になってから、3 年次に受講した主演習とは異なる演習の受講を希望する学生は、3 年次の「主演習」と同一の「系」内で、参加演習を変更することは可能です。希望する学生は、当該年度向けのゼミ募集の際に新たに新 4 年次生として応募して、受け入れ内諾を得てください。

③ 3年次で主演習と副演習の履修により卒業要件を満たした場合:経済・経営学演習の必修は8単位ですから、3 年次であっても主演習 4 単位と副演習 4 単位(ただし、経済・経営学演習に限る。)を同時履修して単位を修得すれば、卒業要件を満たすことになります。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り 3 年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。(8 単位を超えて修得した単位は 8 単位まで「自由選択科目」に含めることができます。)

b. 経済工学科の皆さん

経済工学演習の必修は 4 単位ですから、経済工学科の学生は、①3 年次だけ履修、或いは、②4 年次以降になってから履修、という受講方法も可能です。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り 3 年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。なお、①の場合、早い時期(3 年次の 1 月末まで)に指導教員にその旨を申し出てください。②の場合、上記「(1)d. 4 年次以降から演習に参加する場合」に記載されている指示に従ってください。

c. 人社系副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん

横断型プログラムの「グローバル時代のビジネス」及び専門領域型プログラムの「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」を履修しており、経済・経営学演習又は経済工学演習を履修希望の学生については、「副演習」募集の際にゼミ申込をしてください。1次募集、2次募集の際は、応募できません。

参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。

3. ゼミ募集スケジュール

ここでは、ゼミの応募にあたっての注意と、手続きについて説明します。第１次、第2次募集の申込期限と内定者発表の流れは以下のとおりです。日時など間違わないように注意をして応募してください。

(1)主演習の応募

11月上旬 ～	ゼミ募集要項を、**経済学部ホームページのゼミナール関連情報** (https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php)で公開します。冊子の配布はありません。
11月4日(水)～12月23日(水)	**オープンゼミ**に参加して、教員や先輩の意見を聞き、応募するゼミを決めてください。なお、オープンゼミを開催するゼミと開催しないゼミがありますので、開催の有無、開催方法(対面／オンライン)、開催の日時・場所等はゼミ募集要項やゼミナール関連情報サイトで確認してください。**(※オープンゼミの開催日と履修している授業が重複する場合は、授業への出席を優先すること。)**

(注) **オープンゼミ**とは、通常のゼミの様子(教員とゼミ生とのやりとりや学習内容)を見て感じてもらうために、ゼミの時間を開放する見学会をいいます。**ゼミ説明会**とは、ゼミの特徴や内容などを知ってもらうために特別に開催する懇談会をいいます。

【第1次募集】

12月24日(木)～1月5日(火)17:00まで	「演習参加申込書」に記入の上、**指定の方法で提出**してください。 **演習参加申し込みは一人一ゼミです。二つ以上申し込みした場合は無効になります。** **また、メールでの提出は認めません。**
1月22日(金)	経済学部掲示板及び**経済学部ホームページ**に第１次募集の内定者名簿を掲示します。 【受入れが未決の学生】→第２次募集での受入れが「可」と表示されているゼミに、必ず応募してください。空きがあれば、第１次募集時と同一ゼミへの再申し込みも可能です。

【第2次募集】

1月22日(金) ～1月27日(水)17:00まで	第１次募集内定未決学生は、第１次募集の内定者名簿掲示の際に、第2次募集受入「可」(学年別に表示されるので注意してください)と表示されている演習を選択して、**「演習参加申込書」を2部(第1希望用および第2希望用)**作成し、指定の方法で提出してください。
	※教員によっては第２次募集期間中に面接を実施することがある。面接を受けられない場合の措置は教員によって異なるので、「演習参加申込書」を提出する前に、希望教員にメール等で確認しておくこと。
3月4日(木)頃、確定次第随時	経済学部掲示板及び**経済学部ホームページのゼミナール関連情報**に第２次募集の内定者名簿を掲示します。

(2)副演習の応募

2次募集結果発表後(3月中)	副演習は3月中が募集期間となります。副演習への参加を希望する学生は、希望するゼミの教員へ相談のうえ、学務課経済担当ではなく、直接、教員へ演習参加申込書を提出してください。 入ゼミの可・否については、ゼミ教員が決めることになります。 ※副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご留意ください。

4月以降	受け入れが決まった演習に履修登録を行ってください。 (受入れ許可が出ていない演習への登録はできません。)

4. ゼミ説明会日程一覧

学科	系等	教員名	メールアドレス	実施日時		実施形態 (詳細は各教員ページを確認すること)	実施場所
経済・経営学演習	経済分析	加河　茂美	kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp	11月20日(金)	16:30-17:30	対面	D-107
				12月11日(金)	16:30-17:30	対面	D-107
		中石　知晃	nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jp	12月4日(金)	16:40-18:10	対面	E-103
				12月10日(木)	16:40-18:10	対面	E-206
		八木　信一	yatsuki@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド			
		前田　真一郎	maeda@econ.kyushu-u.ac.jp	12月10日(木)	15:00-16:00	対面	E-110
				12月17日(木)	15:00-16:00	対面	E-110
		水野　敦子	amizuno@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日(火)	16:30-終了次第	対面	E-201
				12月17日(木)	16:30-終了次第	対面	E-318
		今田　青冶	imada.seiya.805@m.kyushu-u.ac.jp	11月27日(金)	16:40-17:40	対面	D-106
				12月11日(金)	16:40-17:40	対面	E-109
				12月18日(金)	16:40-17:40	対面	D-106
		藤井　秀道	hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp	11月20日(金)	12:10-12:50	対面	E-211
				11月27日(金)	12:10-12:50	対面	E-211
				12月18日(金)	12:10-12:50	対面	E-211
		山ノ内　健太	yamanouchi.kenta@kagawa-u.ac.jp	12月15日(火)	12:00-13:00	オンライン	-
				12月22日(火)	12:00-13:00	オンライン	-
	産業分析	福田　崚	rfukuda@econ.kyushu-u.ac.jp	11月19日(木)	16:40-17:20	対面	D-107
				12月9日(水)	12:10-12:50	対面	D-107
		安田　聡子	yasuda-satoko@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない			
		與倉　豊	yokura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月10日(木)	12:10-12:40	対面	E-211
		堀井　伸浩	horii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月11日(金)	12:10-12:50	対面	E-203
		鷲崎　俊太郎	shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月3日(木)	16:40-18:10	対面	E-101
				12月10日(木)	16:40-18:10	対面	E-101
		北澤　満	kitazawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日(火)	12:10-12:50	対面	E-204
				12月14日(月)	12:10-12:50	対面	E-204
		左近　幸村	sakon@econ.kyushu-u.ac.jp	12月4日(金)	12:10-12:40	対面	E-203
	企業分析	大坪　稔	otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp	12月14日(月)	16:30-終了次第	対面	E-211
		岸野　早希	sakishino@econ.kyushu-u.ac.jp	12月1日(火)	16:30-17:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-204
		大石　桂一	oishik@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日(火)	16:40-18:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211
		潮﨑　智美	shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp	12月21日(月)	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-106
		小津　稚加子	ozu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月1日(火)	15:00-15:35	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-205
				12月15日(火)	15:00-15:35	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-205
		加納　拡和	kano@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日(月)	15:00-16:00	対面	D-105
				12月21日(月)	15:00-16:00	対面	D-105
経済工学演習		阿部　貴晃	takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp	11月24日(火)	14:50-16:20	対面	D-107
				12月4日(金)	14:50-16:20	対面	E-202
				12月14日(月)	14:50-16:20	対面	E-202
		藤田　敏之	tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド			
		池下　研一郎	ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日(水)	12:15-12:45	対面	E-317
				12月10日(木)	12:15-12:45	対面	E-317
		山崎　大輔	yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない			
		瀧本　太郎	takimoto@econ.kyushu-u.ac.jp	12月3日(木)	12:20-12:40	対面	E-211
		村尾　徹士	murao@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日(火)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208
				12月17日(木)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208
		宮﨑　毅	tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない			
		三輪　宏太郎	kotmiwa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月22日(火)	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208
		室賀　貴穂	kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない			
		浦川　邦夫	urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない			
		吉田　賢一	kenichi.yoshida@econ.kyushu-u.ac.jp	12月1日(火)	16:40-18:10	オンライン	-
		葉　聰明	yeh@econ.kyushu-u.ac.jp	11月4日(水)	16:50-17:20	対面	E-208
		堀　宣昭	hori@econ.kyushu-u.ac.jp	12月11日(金)	16:40-17:10	対面	E-206
		菅　史彦	f.suga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月9日(月)	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-319
		小室　理恵	rie.komuro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月21日(月)	14:50-15:30	対面	E-324
		大西　俊郎	ohnishi@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日(火)	14:50-15:30	対面	D-107
		北原　知就	tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp	11月26日(木)	16:50-17:20	オンライン	-
		松本　浩一	k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月4日(金)	12:00-13:00	オンライン	-
		伊豆永　洋一	izunaga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月17日(火)	15:00-16:00	対面	D-107
				12月1日(火)	15:00-16:00	対面	D-107
		李　文	li.wen.209@m.kyushu-u.ac.jp	12月17日(木)	13:00-14:00	オンライン	-

令和8年度ゼミ説明会　開催時刻・教室

（日付順）

月	日	曜日	時間	経済分析系		産業分析系		企業分析系		経済工学科	
				ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所
11月	4日	水	16:50-17:20							葉	E-208
	9日	月	12:15-12:45							菅	E-319
	17日	火	15:00-16:00							伊豆永①	D-107
	18日	水	12:15-12:45							池下①	E-317
	19日	木	16:40-17:20			福田①	D-107				
	20日	金	12:10-12:50	藤井①	E-211						
			16:30-17:30	加河①	D-107						
	24日	火	14:50-16:20							阿部①	D-107
	26日	木	16:50-17:20							北原	オンライン
	27日	金	12:10-12:50	藤井②	E-211						
			16:40-17:40	今田①	D-106						
12月	1日	火	15:00-15:35					小津①	E-205		
			15:00-16:00							伊豆永②	D-107
			16:30-17:00					岸野	E-204		
			16:40-18:10							吉田	オンライン
	3日	木	12:20-12:40							瀧本	E-211
			16:40-18:10			鷲崎①	E-101				
	4日	金	12:00-13:00							松本	オンライン
			12:10-12:40			左近	E-203				
			14:50-16:20							阿部②	E-202
			16:40-18:10	中石①	E-103						
	7日	月	15:00-16:00					加納①	D-105		
	8日	火	12:10-12:50			北澤①	E-204				
			16:40-18:10					大石	E-211		
	9日	水	12:10-12:50			福田②	D-107				
	10日	木	12:10-12:40			與倉	E-211				
			12:15-12:45							池下②	E-317
			15:00-16:00	前田①	E-110						
			16:40-18:10	中石②	E-206	鷲崎②	E-101				
	11日	金	12:10-12:50			堀井	E-203				
			16:30-17:30	加河②	D-107						
			16:40-17:40	今田②	E-109						
			16:40-17:10							堀	E-206
	14日	月	12:10-12:50			北澤②	E-204				
			14:50-16:20							阿部③	E-202
			16:30-終了次第					大坪	E-211		
	15日	火	12:00-13:00	山ノ内①	オンライン						
			12:10-12:40							村尾①	E-208
			14:50-15:30							大西	D-107
			15:00-15:35					小津②	E-205		
			16:30-終了次第	水野①	E-201						
	17日	木	12:10-12:40							村尾②	E-208
			13:00-14:00							李	オンライン
			15:00-16:00	前田②	E-110						
			16:30-終了次第	水野②	E-318						
	18日	金	12:10-12:50	藤井③	E-211						
			16:40-17:40	今田③	D-106						
	21日	月	16:40-17:40					潮﨑	D-106		
			15:00-16:00					加納②	D-105		
			14:50-15:30							小室	E-324
	22日	火	12:00-13:00	山ノ内②	オンライン						
			12:10-12:40							三輪	E-208

５．推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）

経済・経営学科の学生は、各ゼミが推奨する「基本科目」（＝推奨基本科目。以下の表を参照）を受講していることやその成績が、ゼミの選抜の際に参考とされるケースもありますので、その点を考慮して応募してください。

経済・経営学科のゼミ担当教員別 推奨基本科目一覧

1-2 年						3-4 年		
学科の必修科目	推奨基本科目					3-4 年次演習（ゼミ）担当教員	教員が担当している専攻教育科目	系
	経済史Ⅰ・Ⅱ	経営学Ⅰ・Ⅱ	会計学Ⅰ・Ⅱ	情報処理Ⅰ・計量経済学	国際経済学Ⅰ・Ⅱ			
【学部必修】 ・経済学入門 ＋ 【学科必修】 ・マクロ経済学Ⅰ						加河　茂美	経済統計	経済分析
						中石　知晃	統計計量分析	
						八木　信一	地域政策	
						前田　真一郎	金融システム	
						水野　敦子	開発経済	
						今田　青冶	生態経済学	
						藤井　秀道	現代日本経済論	
						山ノ内　健太	国際経済政策	
・マクロ経済学Ⅱ ・ミクロ経済学Ⅰ ・ミクロ経済学Ⅱ ・政治経済学Ⅰ ・政治経済学Ⅱ ＋ 【ゼミ推奨】 ・右表参照						福田　　峻	産業政策	産業分析
						與倉　　豊	産業配置	
						堀井　伸浩	産業構造	
	◎※					鷲崎　俊太郎	日本経済史	
	◎					北澤　　満	日本経済史	
	◎					左近　幸村	西洋経済史	
		◎				大坪　　稔	経営政策	企業分析
		◎				岸野　早希	人的資源管理	
			◎			大石　桂一	企業会計	
			◎			潮崎　智美	財務会計	
			◎			小津　稚加子	国際会計	
		◎				加納　拡和	日本経営論	

注）以上は 2026 年度開始時点の情報に基づくが、実際の開講にあたっては、教員の海外研修・新規採用、その他の事情により、一部で追加や変更が生じる可能性がある。

※「経済史Ⅰ」のみ推奨

６．教員別ゼミ募集要項

＊経済・経営学演習（経済分析系）・・・

経済･経営学演習（加河茂美ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	環境経済システム論	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	加河茂美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源問題、自然災害問題に関心があること		キーワード	パリ協定、環境規制、産業、企業、製品、都市、地球温暖化、循環型社会、環境問題、持続可能性、自然災害	
全体の教育目標	環境経済システムという大きな枠組みだけでなく､個別の環境規制策の有効性にも焦点を当て、現代の環境･資源問題の核心について学ぶ｡現場見学､他大学ゼミとの合同セミナー、グループ学習などを通して、探究心、考察力を養う。		個別の学習目標		

授業の概要

3-4年合同でゼミを行う。
3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表（例：環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）など）
3年生後期：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。
4年生：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。

授業計画

3 年生前期：教科書・参考書の輪読・発表・質疑、現地調査、
3年生後期・4年生：自分の問題意識のブラッシュアップ→研究テーマ案の発表→研究テーマの確定→研究→中間発表（9月合同セミナー）→研究→研究発表会・表彰（1月）

授業の進め方

ゼミ形式

教科書及び参考図書

環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）

試験・成績評価の方法等

平常点で評価する。

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画､その他特記事項

- 4 月:花見＆新ゼミ生歓迎会
- 5 月～7 月:バーベキュー、登山、海釣り、スポーツ大会(ボウリング大会･バレーボール大会など)、現場見学
- 7 月:IIOA 研究発表会(2027 年度は香港で開催予定)
  ※参加希望者のみ。旅費は研究予算を利用。
- 8 月:暑気払い
- 9 月:合同ゼミ(2026 年度は谷川ゼミ[名古屋大学]、橋本ゼミ[立命館大学]、重富ゼミ[立命館大学]と大分で実施)
- 9 月:環境経済･政策学会(2027 年度は東京で開催予定)
  ※参加希望者のみ。旅費は研究予算を利用。
- 10 月:合同バーベキュー
- 11 月:ゼミ同窓会、登山、海釣り、スポーツ大会(ボウリング大会･バレーボール大会など)
- 12 月:忘年会
- 2 月:合同卒業論文発表会(藤井ゼミ･中石ゼミ･今田ゼミ)
- 2 月:卒業旅行
- 3 月:日本 LCA 学会研究発表会(2026 年度は立命館大学(大阪)で開催)
  ※参加者の旅費は研究予算を利用。

応募に当たっての注意

当ゼミの説明会は対面形式で行います。当ゼミ希望の学生は下記のゼミ説明会に少なくとも 1 回は参加してください。
第 1 回ゼミ説明会:11 月 20 日(金)16:30-17:30
第 2 回ゼミ説明会:12 月 11 日(金)16:30-17:30

経済･経営学演習　　（　　中石　知晃　　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	食料・環境経済学	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	中石　知晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。 食料･環境問題をはじめ､持続可能な社会に関わるさまざまな社会･経済問題に関心を持ち､主体的に研究に取り組む意欲があること。		キーワード	気候変動･大気汚染･生物多様性／食品廃棄･資源循環／ウェルビーイング･環境配慮行動／長時間労働・児童労働／都市緑化･都市犯罪･コンパクトシティ／再生可能エネルギー・エネルギー安全保障／国際貿易･グローバル･サプライチェーン／正義・公平性	
全体の教育目標	持続可能な社会に関わるさまざまな課題を経済学的に捉え、データに基づいて分析し、自らの考えを論理的に発信できる力を養う。		個別の学習目標	自ら研究課題を設定し、データの収集・分析、研究発表、卒業論文の作成までを主体的に行うための基礎的な研究能力を身につける。	

授業の概要

本ゼミでは、食料・環境経済学を中心に、持続可能な社会の実現に関わるさまざまな社会・経済問題について、データを用いた実証研究を行います。研究テーマは、気候変動、大気汚染、生物多様性などの**環境問題**、食品廃棄や資源循環などの**食料問題**、ウェルビーイングや環境配慮行動などの**生活・行動に関わる問題**、長時間労働や児童労働などの**労働問題**、都市緑化・都市犯罪・コンパクトシティなどの**都市問題**、再生可能エネルギーやエネルギー安全保障などの**エネルギー問題**、国際貿易やグローバル・サプライチェーンをめぐる**国際経済問題**、さらに移動やエネルギーをめぐる**正義・公平性に関わる問題**まで幅広く扱います。

各自の関心に応じて研究テーマを設定し、統計・計量分析、アンケート調査、地理情報システム（GIS）などを用いて研究を進めます。**入ゼミ時点で研究テーマが明確に決まっている必要はありません。** 関心のある社会課題や問題意識をもとに、教員と相談しながら、テーマ設定の段階からサポートします。また、**数学やプログラミングの得意不得意は問いません。** データ分析に必要な統計ソフトウェアについても、基本的な操作からゼミ内の先輩アドバイザーが丁寧にサポートします。

授業計画

3年生前期：教科書の輪読・発表・質疑等をグループで行ってもらいます（※教科書は右下を予定）。
3年生後期～：任意の卒論テーマを設定してもらい、設定テーマに関する調査・分析・報告を行ってもらいます。4年後期の1～2月頃には調査内容を卒業論文として取り纏め、最終報告会にて発表してもらいます。

授業の進め方 演習形式で行います。毎回の報告担当者がスライド（パワーポイント）形式で報告し、報告内容に対する質疑・討論等を全員で行ってもらいます。ゼミは3年生、4年生、大学院生の合同で行います。	**教科書及び参考図書** 【教科書】環境経済学をつかむ［第4版］（有斐閣・栗山浩一、馬奈木俊介）；環境経済学の第一歩（有斐閣・大沼あゆみ、柘植隆宏） 【参考書】実証分析のための計量経済学（中央経済社・山本勲著）；地域データ分析入門 すぐに役立つEBPM実践ガイドブック（林 宜嗣、林 亮輔）
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価。	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ活動における活発な議論は、ゼミ生同士の信頼（友好）関係の上に成り立ちます。また、良い研究のアイデアは、研究室や自宅に引きこもっていては不思議と生まれず、散歩中や友人との会話の中で偶然生まれたりするものです。当ゼミでは、歓迎会、キャリアセミナー、スポーツ大会、山登り、現場見学、合同ゼミ、合同バーベキュー、同窓会、忘年会、ゼミ卒業旅行、学会参加、送別会等の様々なイベントを通して、ゼミ生同士は勿論、多種多様な社会人の方々とも積極的に関わり、個々人の知見を十分に広げてもらえればと思います。ゼミの詳しい活動内容や雰囲気等は、ゼミの公式 HP（https://nakaishizemi.com/）やゼミ生管理の Instagram（https://www.instagram.com/nakaishizemi/）等をご覧ください。

応募に当たっての注意

ミスマッチを避けるため、ゼミ説明会（※**対面で実施**）へは原則参加して下さい。やむを得ない理由で参加不可能な場合は、nakaishi@econ.kyushu-u.ac.jp にメール頂ければ個別に対応を検討します。ゼミ説明会は、**12 月 4 日（金）**及び **12 月 10 日（木）**の **2 日間**の **5 限（16 時 40 分～18 時 10 分）**の時間帯で開催します。応募多数で選抜となる場合は、志望理由や特定の社会課題への興味関心の度合いを重視します。オープンゼミは実施致しません。

経済・経営学演習（八木信一ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	人口減少社会における自治体地域政策と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	八木　信一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	持続可能な社会、自治体地域政策、地方財政、居住保障、居住支援、空き家	
全体の教育目標	広い意味で「地域」と主体的に関わることのできる人材を養成すること。		個別の学習目標	「地域」について「どうなるか」ではなく、「どうするのか」を具体的に提言できるようになること。	

授業の概要

人口減少と経済のグローバル化が進むなかで、日本においても「地方分権」、「地域主権」、そして近年では「地方創生」という名称のもとで、地域から持続可能な社会をつくるための諸改革が行われてきた。これらの成果については賛否両論あるが、地方自治体による地域政策（以下、自治体地域政策）のイノベーションと、それを促す分権型の地方財政制度の構築が大きなテーマとなっていることは見逃せない。そしてこのゼミでは、この大きなテーマに果敢に挑んでいく。そこではとくに、地方財政やそれに関わる自治体地域政策の実際と、これらの背後にある理論や思想との往復運動を絶えず試みることによって、演習参加者が自治体地域政策に関わる政策提言能力を養えることを目標としたい。

授業計画

3年次は、地方財政と自治体地域政策に関わる文献を輪読する（具体的には、担当教員も執筆している地方財政のテキストと、東京都内だけでなく福岡市においても顕在化してきている、居住をめぐる諸問題に関する文献を、それぞれ取り上げる予定である）。加えて、3年次と4年次の2年間をかけて、グループによる卒業論文の準備と執筆に取り組んでもらう。このうち3年次では先行研究のサーベイとヒアリング調査を中心に行い、4年次では論文の執筆（および必要に応じて追加のヒアリング調査）を行う。

授業の進め方

3年次の文献輪読は①報告、②内容理解のための質疑応答、③議論（受講者数が多い場合はグループに分けて行う）、④教員からのコメント、⑤次回授業までに振り返りレポート（800 字程度）の提出、という順番でおこなう。卒業論文は3年次では隔週で経過報告を行い、4年次では進路決定後から論文指導を本格的に行う。

教科書（文献輪読予定分）

八木信一・関耕平・川勝健志・金子林太郎(2026)『地域からはじめる地方財政』有斐閣。

山本美香（2026）『空き家があっても借りられない時代の居住保障』ミネルヴァ書房。

試験・成績評価の方法等

規定の出席回数を前提にしたうえで、演習活動の発展に対する貢献を総合的に判断して評価する。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

このゼミの（学びにおける）最大の企画は、卒業論文である。ゼミ生自らが自治体地域政策に関わるテーマを選定し、グループで先行研究のサーベイ、統計分析、およびヒアリング調査などに基づいて論文を執筆してもらう。また、論文では政策課題の指摘だけでなく、それらの課題を現実的に解決するための政策提言まで含むことができるように指導する。

応募に当たっての注意

【ゼミ説明会・ゼミ見学について】

①<u>ゼミ説明会はオンデマンドで行う。</u>Moodle における本演習募集用のコース（詳しくは経済学研究院 HP のゼミナール関連情報で情報提供する）を登録したうえで、「いつでも、どこでも、何度でも」視聴できる機会を設ける。

②ゼミ見学はオープンゼミ期間中のうち、ゼミ開催日において対面のみ認める。日程等について、詳しくは Moodle における本演習募集用のコースで通知する。

【選考について】
①応募にあたっては、Moodle における本演習募集用のコース登録とゼミ説明会の視聴を必須とする（ゼミ見学は任意とする）。そのうえで、ゼミ選考は申込書（および面談を行う場合もあり）に基づいて行う。
②申込書については記述された内容と分量で評価するが、「志望動機」と「これまでの大学生活で得たもの」は必ず含めること。
③面談（Zoom で実施）は応募人数に関係なく、申込書の内容と分量だけでは意欲や能力等が十分に把握できない志望者、および新年度4年次生以上の志望者に対して行う。（なお、面談に応じなかった場合は不合格となるので、注意すること。）

【その他】
①4年次生以上からの新規参加の場合についても、卒業論文の執筆も義務づける。なお、4年次生以上からの新規参加者については、個人による執筆も認めている。
②このゼミの特徴は、「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりである。地域という現場における様々な課題にしっかりと向き合いたい人、そしてその過程を通して自ら考えたことや学んだことについて書くことで表現したい人は、とくに歓迎したい。これらは一見して地味であるかもしれないが、グローバル社会で求められる姿勢や能力と、根底的なところでは共通するものである。なお、担当教員が抱いている「地域という現場」と「書くこと」に対するこだわりを理解したい人は、八木信一・関耕平（2019）『地域から考える環境と経済―アクティブな環境経済学入門』有斐閣を読んでほしい。

経済･経営学演習　　（　前田真一郎　ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	グローバル化と金融	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	前田真一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	金融システム、グローバル化、フィンテック、金融危機、金融規制	
全体の教育目標	研究を通して、自ら考える力を伸ばし、自分の意見を論理的に述べるようになる。		個別の学習目標	グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について自ら考察する。研究成果報告を通じたコミュニケーション能力の向上を図る。	

授業の概要
金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、キャッシュレス決済など）をもとに、その広がりと金融との関係を幅広い視点で見ていく。演習では、各グループでの研究発表および全体討論を行う。そのうえで、研究成果をプレゼンテーション大会等で発表する。
演習において、3年生と4年生は必要に応じて合同とすることもある。

授業計画
第１回 ガイダンス：ゼミの進め方とゼミでの研究について話し合い、目的意識を共有する。
第２回以降 研究発表・討論：各グループでの研究発表および全体討論を行う。

授業の進め方 いくつかのグループに分かれてテーマを選び、研究発表・討論を行います。	**教科書及び参考図書** 【教科書】必要に応じて指示します。 【参考書】必要に応じて指示します。
試験・成績評価の方法等 平素の成績100%。 （4年時は、平素の成績50%、ゼミ論文50%）	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ生の自主性を重視します。グループごとの発表は、質疑応答の時間を長く設けて、ゼミ生同士で議論し発展させていきます。日本とアメリカでの経験も踏まえ、グローバルな視点で研究を進められればと思っています。

また親ぼくを深めるため、スポーツやゼミ合宿等を行います。それらを通じてもゼミ生全員が親しくなり、卒業後も長い付き合いができればよいと思っています。

応募に当たっての注意

ゼミ説明会を２回に分けて対面で行います。ゼミ説明会は、自由参加とします（途中入出場可）。

なお、説明会には、教員に加えゼミ生も参加し、個別に質疑応答の時間も設けます。

いずれの説明会にも参加できない場合は、メール（maeda@econ.kyushu-u.ac.jp）のうえ、個別相談に応じます。

経済･経営学演習　　（　水野　敦子　ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	途上国経済の実態と課題	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	（記入不要）	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	水野敦子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	自由選択科目「開発経済」を受講すること		キーワード	開発経済、農村開発、開発政策、格差・貧困、産業化、労働力移動	
全体の教育目標	開発経済の知識、理解を深めるとともに、グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力､ディベート力､発信力の向上を目指す		個別の学習目標	途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶとともに、開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める	

授業の概要

3年生では、まず開発経済の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストを精読します。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。4年生は、開発経済に関する学術論文を輪読するとともに、個別研究について順に発表し議論を深めます。研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。

3、4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。

授業計画

3 年生：（1～10 回）開発経済に関する基礎的文献の輪読。（11～20 回）グループ研究、学術論文の輪読。（20～30 回）研究報告、研究レポートの作成。

4年生：（前期）学術論文の輪読、研究課題の設定、（後期）資料の収集とその分析、ゼミ論文の作成。

授業の進め方 テキスト輪読、グループ・個別研究は、報告者を順番で割り当てます。学生諸君の発表、討論が中心。 また、適宜学外での活動を実施します。	**教科書及び参考図書** 【教科書】適宜指定 【参考書】適宜指定
試験・成績評価の方法等 輪読の報告20%、ゼミ議論への貢献20%、グループおよび個人研究30%、研究レポート、ゼミ論30%	**その他** 演習参加申込行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画､その他特記事項

グループ研究の完成､ゼミ論の作成は単位取得の必須条件です。ゼミでの能動的な学びによって､授業では身に着けることができない能力を向上させることができます。その他のゼミ活動においても､学生の主体的な企画を歓迎します。研究発表会は､学内（堀井ゼミ､北澤ゼミ､鷲崎ゼミと合同）､学外では､西南学院大学､韓国の東国大学と開催。ゼミ合宿もゼミ生と相談して決定します。近年は､2023 年度タイ､2024 年度熊本､2025･2026 年度韓国で実施しました。合宿旅費の支援を受けるなどして低予算で実施しています。

応募に当たっての注意

希望者は､ゼミ説明会に出席してください。やむを得ず､出席できない場合は､応募前に連絡､相談してください。ゼミ説明会では､当ゼミ生の研究も紹介しますので､関心のある人は聴講してください。応募者には､簡単な面談を行います。

演習参加申込書の提出方法（※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。）

第1次募集　□手書き　□Word ファイル　☑いずれも可

第2次募集　□手書き　□Word ファイル　☑いずれも可

経済･経営学演習　（今田 青冶ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	生態経済学と環境政策	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	今田 青冶	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源･エネルギー問題などに関心があること		キーワード	生態経済、環境経済、サプライチェーン分析、資源、再生可能エネルギー、	
全体の教育目標	ゼミ活動を通じて、受け身ではなく主体的に行動し、自ら考える姿勢を身につけます。 また、発表や質疑応答を重ねることで、論理的に考え、自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指します。		個別の学習目標	自分自身の研究を深く理解し、その内容を自分の言葉で伝える能力を身につける。	

授業の概要
ゼミでは「生態経済学」や「環境経済学」に関する輪読を行った後、自身で設定した研究課題（生態経済学、環境問題、資源、エネルギー問題などに関連するものが望ましい）について情報収集・分析・発表を行ってもらいます。研究を進めるうえで、Excel等を用いたデータ分析を行ってもらいます。その際のPCスキル等のサポートは適宜行っていきます。

授業計画
3年生前期：教科書の輪読・発表・質疑応答（※教科書を適宜指定、2026年度は生物多様性と生態系サービスの経済学（吉田謙太郎著）を使用しました。）
3年生後期以降：自身の研究テーマ案の発表し、研究テーマの決定後、研究を進めてもらい、進捗報告を行ってもらいます。4年後期の1~2月頃に研究内容を卒業論文として発表してもらいます。

授業の進め方 演習形式で行います。 ゼミは 3 年生、4 年生の合同で行います。	**教科書及び参考図書** 【教科書】 生物多様性と生態系サービスの経済学（昭和堂・吉田謙太郎） ※変更の可能性もあるので、適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価します。	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ活動は、少なくとも 2 年間続きます。その中で、研究を進めたり、さまざまなイベントに参加したりと、皆さんはそれなりの時間をゼミで過ごすことになります。

せっかく同じ時間を使うのであれば、ただ受け身で参加するのではなく、自分から積極的に関わり、楽しみながらゼミ活動に取り組んでほしいと考えています。研究もイベントも、自分から動いたほうが得られるものは多く、ゼミで過ごす時間もより充実したものになると思います。

ゼミでは、歓迎会や忘年会、学会参加、山登り、合同ゼミ、合同 BBQ など、さまざまなイベントを行っています。こうした活動を通じて、ゼミ生同士で仲を深めるだけでなく、他大学や他ゼミの学生とも交流し、普段とは違う考え方や価値観に触れる機会にしてもらえればと思います。

ゼミの雰囲気やイベントの様子については、ゼミ生が運営している Instagram もぜひ参考にしてください。

応募に当たっての注意

対面で行うゼミ説明会へは原則参加して下さい。やむを得ない理由で参加できない場合は、imada.seiya.805@m.kyushu-u.ac.jp に連絡をください。可能な範囲で個別に対応します。ゼミ説明会は、**11 月 27 日(金)、12 月 11 日(金)、12 月 18 日(金)**の 3 日間(**全て 16 時 40 分～17時 40 分の間**を予定しています)で開催します。応募多数で選抜になる場合は、志望理由を重視します。

経済･経営学演習　（藤井　秀道　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	サステナブル金融	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	藤井　秀道	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	サステナブル金融、データ分析、持続可能性（SDGs）、環境問題、働きやすさ、人的資本経営、幸福度	
全体の教育目標	経済学的な視点から物事を批判的に考察し、代替案･改善案を提案できる能力を身につける。		個別の学習目標	1. 課題設定能力の育成 2. 批判的思考や質問する能力の育成 3. プレゼンテーション能力の育成	

授業の概要

・藤井秀道ゼミでは「サステナブル金融」、「データ分析」、「持続可能性」をキーワードとした調査テーマについて、理解を深めていきます。特に企業のデータを利用した分析を通じて、持続可能な社会の形成と日本経済の競争力を高める上での課題や取り組みについて、学びを深めます。

・演習を通じて卒業研究テーマを設定し、研究目的及び研究仮説を構築します。データの加工・分析を行う上で必要となるPCスキルの向上もゼミの中でサポートします。

・ゼミは3年生、4年生、大学院生が合同で行います。

授業計画

3年生：前期はデータ分析手法や研究の進め方についてグループワーク形式で学ぶ。
　　後期は個人で卒業研究テーマの選定を行い、ゼミ合宿やポスター報告会で報告を行う。
4年生：卒業研究テーマについて研究を進め、卒業論文の執筆(1月)と卒論報告会(2月)で報告を行う。

授業の進め方 演習形式で行います。受講生による調査内容の報告及び質疑・討論を中心に進めていきます。	**教科書及び参考図書** 【教科書】適宜指定します。 【参考書】適宜指定します。
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価します。	**その他** 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

・歓迎会（4 月）、ゼミ合宿（8 月）、忘年会（12 月）、送別会（3 月）、合同 BBQ（10 月）等を開催予定です。

・企業との合同ワークショップや工場見学など、産学連携を通じた学びの場を企画しています。

・学生の留学に対しては柔軟に対応します(留学中にメール、Zoom による遠隔指導を行います)。

・希望者を対象としては学会で、自分の研究内容を報告する機会を提供します。

・4 年生はゼミ論文を作成し、最終報告会(2 月上旬)で報告してもらいます。

応募に当たっての注意

・ゼミ説明会は対面形式で実施します。事前にこちらのゼミ配属に関する情報を確認してください。
藤井ゼミへの参加申し込みを希望する学生はゼミ説明会に少なくとも 1 回は参加してください。

・履修している授業との重複などでやむを得ず参加できない場合は
hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp にその旨、連絡してください。個別に対応します。

経済･経営学演習　　（　山ノ内　健太　ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	国際経済学演習	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	山ノ内健太	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	貿易論、生産性分析	
全体の教育目標	経済学の理論とデータを用いて国際経済の諸問題を分析し、その結果を適切な形式で表現する方法を身につける。		個別の学習目標	・基礎的な理論の理解 ・関連するデータ処理能力の修得 ・研究課題を設定する力の養成	

授業の概要

本ゼミでは、国際経済学や応用ミクロ経済学の実証分析について学ぶ。まず、国際経済学やミクロ経済学のテキストを輪読し、分析を行うための基礎を養う。その後、国際経済学に関連するデータの処理を通し、データ分析の方法を身につける。また、後期にはグループで課題を設定して研究を進め、成果をゼミ論文としてまとめる。なお、ゼミは3・4年生合同で行う。

授業計画

第1回：ガイダンス
第2回-第8回：国際経済学に関するテキストの輪読
第9回-第15回：実証分析の方法に関するテキストの輪読
第16回-第23回：ゼミ論文のテーマに関連する文献の輪読
第24回-第30回：ゼミ論文の作成・報告

授業の進め方 授業は演習形式で進める。原則としてスライド作成は不要であり、担当者は板書等で説明しながら報告すればよい。ただし、テキストは時間をかけて精読し、不明な点を全て事前に調べてから講義に臨むこと。	**教科書及び参考図書** 【教科書】適宜指定 【参考書】適宜指定
試験・成績評価の方法等 報告の内容や議論への参加、ゼミ論文の完成度に基づいて評価する。	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

夏合宿(または夏季報告会)を 9 月頃に実施する。また、希望に応じて他大学(関東圏、中四国など)との合同ゼミを実施する。懇親会は適宜開催するが、参加はゼミ生の意思を尊重する。

応募に当たっての注意

オープンゼミは実施しない。ゼミ説明会はオンラインで 2 回行う(同一内容)。ゼミ説明会への参加は必須ではないが、可能な限り参加することを推奨する。ゼミ選抜が実施される場合は、成績を重視する。

経済･経営学演習　　（福田崚ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	まちから国土まで：都市・地域を考える	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	福田崚	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	都市計画/まちづくり、国土計画、地域産業政策、地理情報分析	
全体の教育目標	個人研究や、その報告･議論を通じ、都市･地域について幅広い視野から自らの力で考える力を養う		個別の学習目標	･学術論文･学術書を読み解く力をつける ・地理情報システムなどを利用し地域を分析する力をつける ・自らテーマを設定し論文を執筆する力をつける	

授業の概要

都市・地域を対象にした卒業論文を、自分自身でテーマを設定したうえで執筆します。対象とする地域やそのスケール、分析手法は様々なものが想定されます。

3年生では、卒業論文執筆のための準備として、自身の関心のあるテーマについての文献を講読し、知識習得するとともに、学術的な文章の読み方・書き方に慣れていきます。また、地理情報システム（GIS）と呼ばれるソフトウェアの使い方を学び、都市・地域に関する情報を可視化し、分析する力を身に着けます。

4年生では、各自のテーマに従って卒業論文の執筆を行います。研究の進捗をゼミ内で共有し、学生相互で議論し自身の研究に役立てます。

いずれの局面においても、自ら考え主体的に研究を進め、議論に参加することでゼミに貢献することが求められます。

授業計画

3年生：前半は都市・地域に関する文献の講読、後半は地理情報システム（GIS）の使い方を学ぶ
4年生：自分で決めたテーマに従って卒業論文を執筆する

授業の進め方 演習形式	**教科書及び参考図書** 【教科書】適宜指定 【参考書】適宜指定
試験・成績評価の方法等 3年生：平常点100% 4年生：平常点30%、卒業論文70%	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

教員は 2025 年度着任で、九州大学歴は 2 年生の皆さんと同じです。ゼミとしては、皆さんは三期生となります。ともに新しいゼミを創っていきましょう。

都市計画（建築学や土木工学の隣接分野）のバックグラウンドのもとで、国土計画や中心市街地活性化などに関心をもって研究をしてきました。講義は 3 年生以上対象の「産業政策」を担当していします。本ゼミでは、経済学的視点に軸足を置きつつ、学際的視点で都市や地域を研究することを目指します。そのため、卒業論文の内容も皆さんの関心に応じて自由に設定していただきます。前任校（岡山大）では「三大都市圏と地方圏の比較から e スポーツによる地方創生を考える」「民間企業主導のサテライトオフィス事業が持つ今後の地方創生におけるポテンシャルについての考察」「日本における一極集中の現状とその取組に関する諸外国との比較」「高原地域の観光地における外国人宿泊客の実態について」

「財政と民間非営利団体の関連について」等の題目の卒業研究を指導しました。卒業論文の執筆を通じ学修目標に掲げた力を身に着けることができると同時に、一つのテーマについて考え抜いた経験は卒業後の人生においても大きな糧になるものと考えています。

また、通常のゼミ以外の企画として、まち歩きや懇親会などの実施を想定しています（今年度の夏学期は、歓迎会と西新地区のまち歩きを実施しました）。ただし、上述の通り新しいゼミですので、参加する皆さんの希望に応じて企画を設定していきたいと考えています（通常のゼミ以外の参加は任意とします）。

応募に当たっての注意

12 月 14日（月）14 時 50 分より East2 号館 E-E109 号室にてオープンゼミを実施します（学生からの報告・議論を行う前半部のみ公開、最大でも 1 時間半程度。途中入退出可）。説明会には昼休み開催のものもございますが、飲食物等適宜持ち込んで気軽にご参加ください。説明会・オープンゼミとも参加必須ではありませんが、教員とのミスマッチを防ぐためにも参加を推奨します。説明会参加の都合がつかないが話を聞きたい場合や、相談したいことがある場合はメール（rfukuda@econ.kyushu-u.ac.jp）でご連絡願います。ご希望に応じて個別に対応いたします。

また、申込書には、興味のある研究テーマをご記載ください（まだ何もわからない段階かと思いますので、漠然としたもので結構です）。応募多数により選抜を行う場合は、志望理由を重視しつつ、成績も含め総合的に判断します。

経済･経営学演習　　（與倉　豊　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	経済地理学	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	與倉　豊	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	地域経済，地方創生，イノベーション，特許，AI	
全体の教育目標	経済地理学関連の学術論文の精読，レジュメ作成，報告，ディスカッションを通じて，現代の地域経済に関する実態の理解を深める.		個別の学習目標	・文献研究により，独自の研究テーマを探索する. ・基礎的な統計資料の収集・分析により対象地域・産業の概要を把握する. ・実態調査，論文作成	

授業の概要

・ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる様々な現代的テーマ（題材）に関して，「経済地理学」を土台とした研究を遂行していきます．経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野なので，対象地域も対象産業もいろいろなものが考えられます．担当教員は製造業の研究を専門としていますが，農業や商業，観光業，また対象地域も農山村から大都市まで広く関心を持っています．最近では特許分析や都市再開発に関する論文も発表しています．ゼミを通して学生の皆さんに経済地理学のもつ懐の深さを伝えたいと考えています.

・ゼミは３・４年生合同で行いますが，３年生は事前に指定する経済地理学関連の学術論文に関して，レジュメを作成し，報告します．また基礎的な統計資料の収集・分析など，地域分析の手法について指導します．なお，年度末のゼミ最終回を締め切りとして，地域分析レポートを提出する必要があります.

・４年生は各自で設定する研究テーマに関連した文献報告を行うとともに，対象地域，対象産業の調査を行い，研究の進捗状況について報告します．以上の成果として，各自がゼミ論文（卒業論文）を提出し，年度末には研究室の大学院生も含めて，発表会を実施します.

授業計画

第１回　ガイダンス：ゼミの進め方，文献探索の方法，レジュメの作り方について
第２回以降　初回ガイダンスの指示に従い，文献報告，研究の進捗状況の報告を行う.
ゼミ最終回　４年生によるゼミ論文の発表会

授業の進め方 ・演習形式で行います．文献報告においては，報告者以外も事前に取り上げる論文を読み，論文に関する疑問，コメントなどを Moodle にて提出してもらいます．参加者全員が論文を読んでくることを前提としてゼミを進めますので，質の高いディスカッションを行うことが求められます.	**教科書及び参考図書**
試験・成績評価の方法等 ゼミでの報告，ディスカッションへの参加　50%. レポート，ゼミ論文，　50%.	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

・ゼミ生はオリジナルな研究の成果として卒業論文を執筆し，その成果は『與倉ゼミ論文集』として毎年冊子にまとめられています．卒業論文ではデータを集めて地域統計分析を行うほか，インターネットを活用した既存の資料分析を中心に産業地域の事態把握を試みます．余力のあるゼミ生のなかには現地調査を行う学生もいます．3年生の間に卒業論文のテーマを何にするか時間をかけて検討し，4年生になってから実際に研究を進めるという手順で，各自がオリジナルな論文作成に取り組んでいます．

応募に当たっての注意

オープンゼミは実施しません．ゼミ説明会への参加は任意（自由参加）ですが，教員と相談したい場合は，メールにてご連絡ください．個別の相談を歓迎します．

講義題目の「経済地理学」の内容について詳しく知りたい場合は，以下の文献を参考にしてください．九大図書館で閲覧可能です．

・経済地理学会編（2018）:『キーワードで読む経済地理学』，原書房．

・経済地理学会編（2024）:『経済地理学事典』，丸善出版．

経済･経営学演習　（　堀井　伸浩　　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	中国産業の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	堀井伸浩	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	中国経済、日中産業比較、実証分析、フィールドワーク	
全体の教育目標	論理実証主義に基づいた研究分析手法を習得。また中国人留学生とのグループ研究を通じ、生きた中国理解を促す。		個別の学習目標	中国の産業分析を通じて、中国の経済発展の動態に関する知見を得る。	

授業の概要

本講義の教育目標は「仮説に沿ってデータを収集･加工し、分析結果をプレゼンテーションする能力」を学生諸君に身に付けてもらうことである。ゼミを通じ、仮説を導き、それをデータで裏付ける科学的な論理実証主義手法を習得できるように、授業計画を考案している。こうした分析能力は研究者を目指す学生諸君はもとより、社会に出て実務に携わる諸君にも有用なスキルとなると確信している。また躍動する中国経済についての実践的な知識の習得も目指す。

ゼミ活動はグループ研究を主軸に進める。R8年度は「交通インフラ」「起業支援」「社会保険」「カフェ産業」「建設業」「イノベーションシステム」などのテーマについてグループ研究を行っている。新たにゼミに入る新3年生は上記の現在動いているグループのテーマに捉われることなく、自らの希望に沿って新たなグループを立ち上げることを奨励している。なおゼミは3-4年合同で行う。

授業計画

3年次：
4月～7月　オリエンテーション、中国経済・産業分析・グループ研究の設定テーマに関連する文献の輪読
8月　ゼミ合宿に向け、グループごとにリサーチワークに関するコンサルテーション
11月　ゼミ合宿（国内2泊3日）
12月　北澤・鷲崎・水野ゼミとの研究発表会

4年次：
4月～7月　学生諸君と相談して決める
8月　卒業（ゼミ）論文作成に向けたコンサルテーション
9月　ゼミ研修旅行（詳細は3年次の説明を参照）
11月　ゼミ合宿にて卒業（ゼミ）論文構想発表
11月以降、随時卒業（ゼミ）論文指導
12月　神戸大学梶谷ゼミとディベート討論会

授業の進め方

学生諸君の発表、討論が中心。課外活動（ゼミの準備やゼミ合宿）もあり、原則出席が求められる。

教科書及び参考図書

適宜、別途指定する。

試験・成績評価の方法等

平常点を50%、研究発表や卒業（ゼミ）論文を50%で評価。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

1）ゼミは週1回の本ゼミと不定期開催（おおむね月に1回）のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる（いずれもグループワークによる共同作成）。

2）ゼミ合宿は国内で 2 泊 3 日で行うのが通例である。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であるが、グランドゴルフをやったり、アフターゼミも色々と思い出深いものがあります。

3）北澤・鷲崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成 21 年度より実施しており、R8 年度も 12 月に実施予定。また神戸大学の梶谷ゼミとディベート形式のインゼミを実施している。

応募に当たっての注意

ゼミ選抜基準は志望理由重視です。このゼミに対して何を期待するか、自分は何を貢献できるか（売り込めるか）を記述して下さい。特に入ゼミの条件は設けておりません。

ゼミ説明会は入ゼミ後のミスマッチなどを未然に防ぐためにも極力参加してもらいたいと思いますが、ゼミ説明会に参加していないことが選考に影響を及ぼすことはありません。ゼミ説明会に参加できなかった学生さんでゼミのことについて不明な点、聞きたい質問などがあれば遠慮なくメールを下さい。

なお、オープンゼミは実施しません。

経済･経営学演習　（鷲崎俊太郎ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	日本経済史と空間経済学	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義　通年	**担当教員名**	鷲崎　俊太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Iの履修が望ましい（未履修者は新年度に履修可）		キーワード	日本経済史・都市経済・長期経済分析	
全体の教育目標	現代都市の生活・経済の諸問題を，歴史的経緯と照らし合わせながら，分析できる能力を身につける。		個別の学習目標	ライブラリー，ICT，ロジカル・シンキング，プレゼンテーション，論文などリテラシーの養成	

授業の概要

・徳川期～近代の日本経済について，現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につけます。とくに，都市や空間，土地不動産における社会経済メカニズムの発生起源や問題の推移などを，長期時系列的な視野を持って分析，検討していきたいと思っています。

・通常のゼミは，①：テキストの輪読，②：半季に1度は校外に出かけてフィールドワーク（FW），③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション（PR）を行います。

授業計画

3 年次　【2025 年度の実績】

4 月　役職決め，輪読
5 月　輪読，インゼミテーマ報告
6 月　輪読，インゼミ前期中間報告
7 月　インゼミ前期最終報告
9 月　長崎合宿と鹿児島合宿を隔年で開催（今回は，鹿児島城址，鹿児島県歴史・美術センター黎明館，仙巌園，尚古集成館，セイカ食品株式会社日置工場（アイスクリーム工場）などを見学。）
10 月　輪読，インターゼミ向けリハーサル，
11 月　八大学インターゼミ（今回の組合せは，同志社大学長澤ゼミ，公立鳥取環境大学谷口ゼミ，山形大学安部ゼミ），東京合宿
12 月　4 ゼミ合同発表会（堀井・北澤・水野ゼミ）
1 月　輪読，ゼミ論文制作，卒論テーマ発表

4 年次　【例年の実績（オンライン・対面にかかわらず）】

卒論制作：テーマ発表→資料・データ収集→第1回中間発表（7月）→第2回中間発表（11-12月）→最終発表（1月）→提出

授業の進め方

※演習方式を基本とします。
・輪読・PR…報告者にレジュメの作成を，聴衆者に議論の推進を求めます。
・FW…博物館・工場などを見学します。
※2027 年度につきましても，対面式でゼミを重視しつつ，毎週オンライン設定を行うので，当日ちょっと体調が悪いという学生，帰省している学生，あるいはゼミ直前・直後に用事のある学生などには，遠隔式で参加できるよう配慮したいと思います。

教科書及び参考図書

【教科書：来年度使用予定のテキスト】

・まだ決めてはおりませんが，日本経済史の通史的なテキストを輪読していきたいと思います。

試験・成績評価の方法等

・出席状況（議論や校外学習への参加を含む，50%）
・PR・論文に対する評価（50%）

その他

演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

1.「たかが 4 単位　されどゼミ」

「ガクチカ」,「コミュ力」を, めっちゃ付けさせます！その要素は, ①輪読のディスカッション, ②プレゼンテーションの仕方, ③就活時の OBOG とのコンタクトなどにあります。

歴代ゼミ生数	合計	主演習	副演習 副専攻	男子	女子
2009-13 年（1-5 期）	48	37	11	30	18
2014-18 年（6-10 期）	59	47	12	39	20
2019-23 年（11-15 期）	46	39	7	36	10
2024 年（16 期）	11	11	0	9	2
2025 年（17 期）	10	10	0	7	3
2026 年（18 期）	11	9	2	7	4

2. 関心と交友の拡がる副演習・副専攻

鷲崎ゼミでは, 学生自身の興味・関心と専門領域の幅を拡げるために, 副演習の希望者と, 人社系副専攻プログラムの利用者を, 心から歓迎します。主演習に他のゼミを選びつつ, 副演習として鷲崎ゼミを選択することで, 主演習の専門領域をクロノジカル（長期時系列的）に考える思考力が養成されます。また, ゼミ友も 2 倍に増えます。さらに, 他学部から人社系副専攻プログラムを利用して, 鷲崎ゼミに参加する方も少なくありません。（これまで, 文学部の日本史学・考古学・独文学研究室から 1 名ずつ参加していました。）

3. 就活への対応には, ゼミ OBOG が学生に力を相当貸してくれます！

鷲崎ゼミ生の就活では, まず①志望する業界や企業・公務に勤務するゼミ OBOG に, コンタクトをとれる限り, とっていきます。鷲崎ゼミには, 120 人を超える OBOG が国内外で活躍しており, 就職先の業界もバラエティーに富んでいます。（入ゼミパンフレットの「就職先」を参照。）②コンタクトをとったゼミ OBOG は, 直接での対面はもちろん, Zoom や LINE で随時, 相談・話し相手になってくれます。エントリーシートの書き方を学ぶ学生もいました。インターンや会社説明会では言えない, 聞きづらい本音を会話し合っています。③その OBOG から, さらに社内外のお友だち・先輩・後輩を紹介してもらっています。ゼミ OBOG も, 新卒時に同じような就活をしていたので, ほかのどんな就活生よりも親身になって, あなたの将来を考えてくれます。

4. ゼミは, 将来の結婚相手が見つかる場でもあります！

不思議なことに鷲崎ゼミではゼミ同級生同士の結婚が, 9 年間で 4 組も誕生しました（公認の情報のみ）。学生時代にあれこれ意見をぶつけ合い, しょっちゅう会話を繰り広げ, 尊敬しつつ, お互いの短所も理解し合えているからこそ, 生涯の伴侶を誓い合えるご縁があったのだと思われます。（披露宴での祝辞より。）

5. 就職前に歴史を学べるラストチャンス！　暗記しない日本経済の推移を一緒に学ぼう！

志望する業界や企業の成り立ちを知っていますか？留学や海外出張へ行って, 相手地域の社会経済や文化を学べても, 日本のそれを説明できますか？そもそも, なぜいま自分がそこに存在するか, 把握できていますか？共通テストの地歴・公民で世界史・地理選択だった方々, 大歓迎！学部横断的に繋がりを持てるゼミです。たとえ歴史が苦手でも, 必ずやそのアレルギーを解消させて, 経済学を楽しくさせてみせます。

応募に当たっての注意

① ゼミの現役学生と教員が一丸となって, 入ゼミ用YouTube「鷲崎ゼミちゃんねる」を作りました。「副演習履修の意義」や「就活におけるゼミの存在と重要性」,「フィールドワーク（校外学習）やインゼミ（他のゼミとの研究発表会）のおもしろさ」などなど, ゼミ生と教員が語っていますので, **ぜひご覧ください**！

Search on Google now! 鷲崎ゼミちゃんねる　検索

② 入ゼミ用パンフレット: ゼミナール関連情報サイトへ, 11 月下旬に今年度版の掲載を予定しています。

③ 入ゼミ説明会:ゼミ時間中に対面で 2 回実施します。現役ゼミ生との懇親を図り, 質問・相談に応じます。12 月 3 日（木）5 限, 10 日（木）5 限…どちらも, 教員・ゼミ生説明, 3 年生のプレゼンテーション, 座談会

④ 入ゼミ希望者には,「演習参加申込書」提出後に**現役ゼミ生＆担当教員との面談**を実施します（オンライン可）。何か疑問・質問がありましたら, shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp宛に, メールを送信して下さい。

経済･経営学演習　　（　北澤　満　　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	日本の経済社会について、長期の時間軸で考察する	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	北澤　満	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	推奨基本科目「経済史Ⅰ」を履修済であることが望ましい		キーワード	経済史、経営史、産業史、文献・情報検索、文章作成	
全体の教育目標	現代社会経済の諸問題について経緯を踏まえつつ、幅広い視点で分析する能力を養う。グループ・ワークなどの共同作業を通じ、社会性を涵養する。		個別の学習目標	情報・文献検索、レポート・論文等の作成、および各種プレゼンテーションなど、文系の大学生（大卒）として必要とされる技術、および正しい意味での教養を獲得する。	

授業の概要

近現代日本の社会経済に関して、諸産業・諸企業の盛衰、企業家、および背景となる文化・制度・慣習などに焦点を当てつつ、幅広く学習します。まずは初学者向けの平易な文献からはじめ、「個別の学習目標」に掲げた諸技術を習得しつつ、グループ・ワーク、個別の研究報告へと進んでいく予定です。

当ゼミの最大の特色は「懐の深さ」です。「教育目標」に掲げた「経緯を踏まえた分析」にさえ留意してもらえれば、時期・対象のいずれについても、狭く限定することはありません。また、狭義の「経済史」、さらには「経済学」といった枠にとらわれず、政治・教育・文化（食生活・芸術・スポーツ・サブカルチャーなど）といった隣接分野に関しても、積極的に越境していきます。

通常のゼミは、テキストの輪読（テキストの内容について報告の後、全体で議論します）、個人・グループの報告（経済成長と公害の発生、食文化の変容などといったトピックに関して、または経営者・思想家など人物に関して、テーマを設定）が中心ですが、「文献検索」・「レポート作成」のような各種ワークショップや、下記のようなイベントを開催する場合もあります（参加者の希望により、予定は随時変更していきます）。なお、通常のゼミは３・４年生合同で行います。

授業計画

第1回　ガイダンス。当年度のゼミ計画を立案します。
第2回以降　テキストの輪読や、各自の報告を中心に行います。ほかに、下記のような企画を予定しています（最終的な決定については、ゼミ生の意思を尊重します）
4～5月　文献検索ワークショップ
9月頃　他大学とのインゼミ
12月　インゼミ（堀井・鷲崎・水野ゼミと合同）

授業の進め方

基本的には、演習方式です。参加者には、楽しく議論するための準備が求められます。

教科書及び参考図書

【教科書】今年度は、北浦貴士『ビジネスリーダーの会計史』、ピエール＝イヴ・ドンゼ『ラグジュアリー産業』などを使用しました。次年度のテキストは、新3年生とも相談のうえ、決定します。

【参考書】随時・指示します。

試験・成績評価の方法等

出席状況（30%）、報告内容・議論への参加（40%）、ゼミ論文・グループ論文の評価（30%）

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。

ゼミの企画、その他特記事項

工場見学のようなアカデミックなイベントのほか、飲み会、鍋会などもゼミ生の希望に応じて行ってきましたが、正規授業以外は、原則として希望者のみの参加です。また、学生の希望がなければ、そうしたイベントを無理強いすることはありません。総じて、コアとなる学習の部分を確保することは必須ですが、ゼミを今後の大学生活の中心とするか、それとも一部分とするかは、参加者の意思にお任せします。

応募に当たっての注意

・選考について、1 次募集では、それほど成績を重視しません（推奨基本科目についても同様）。すべての面で、現時点での知識量（高校において、日本史履修をしたかどうかなど）も関係ありません。本の読み方、文章の書き方からテーマ設定まで、丁寧に指導します。受け入れに余裕がある場合、それほど厳しく選抜する予定はありません。

・「色々と勉強したいという意欲はあるが、まだやりたいことが固まっていない、見えない」という皆さん、応募を歓迎します。当ゼミでの学習のなかで、それは見つけられるはずです。

・ゼミ説明会は2回行います。どちらも同じ内容なので、1回出席するのみで結構です（ただし、教員や現ゼミ生とより長く話したい、などの事情があれば、2 回出席しても問題ありません）。選抜が必要な場合、説明会への出席が最重要項目なので、この点ご注意ください。ただし、都合によって 2 回とも出席できないという場合は、別途教員と個別に面談することで、説明会出席と同様に措置します。

・ゼミ活動については、ゼミの Instagra もご覧下さい。「九州大学　北澤ゼミ」で検索すればヒットします。「公開」設定なので、アカウントがなくても閲覧できます。

・詳細なゼミ募集に関する情報は、moodle のゼミ募集ページで流します。
https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=33069

経済･経営学演習　　（左近　幸村　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	外国経済史を学ぶ	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	左近幸村	授業対象学生及び学年等	3年生以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Ⅱ		キーワード	工業化、グローバル化、市場	
全体の教育目標	学術文献を読めるようになる。現代的な市場の起源を考察する。		個別の学習目標	経済史、もしくは経済思想史に関する論文を書けるようになる。	

授業の概要

経済史や、経済思想史の文献を読み、議論する。実際は、揃ったメンバーの関心、読解力に合わせてテキストを選ぶが、今のところ、以下のトピックを扱うことを考えている。

・産業革命をめぐる論争。
・「市場経済」と「資本主義」の違い。
・経済学の歴史。18世紀以降、どのように経済学は変化してきたのか。

授業計画

詳しくは決めていないが、参考までに、2026年度のテキストを以下に挙げる。

- 松沢裕作『歴史学はこう考える』（ちくま新書、2024年）
- 亀田真澄『闇の広告史：プロパガンダからターゲティング広告まで』（平凡社新書、2026年）
- 石橋悠人『世界地図と地球の時間：グリニッジ標準時と本初子午線』（ちくま新書、2026年）

授業の進め方 輪読形式の予定	**教科書及び参考図書** 【教科書】 上記参照 【参考書】 上記参照
試験・成績評価の方法等 授業における報告、コメント。 長期休暇時のレポート。	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

教員は下戸なので、飲み会を企画することはない。合宿も予定しておらず、ゼミで青春を謳歌したい人には不向き。

卒論を執筆することを求める。

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会への参加は必須ではない。メールでの相談や、アポを取った上で研究室に来るのも可。
- 申請書に記載してほしい情報:

  「なぜ外国の歴史を学ぶのか」というテーマで、自身の経験を踏まえながら、1000 字程度で書くこと。

  成績よりも志望理由を重視。

経済･経営学演習　（　大坪 ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	経営財務の基礎	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	大坪 稔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・Ⅱ		キーワード	資金調達、M&A、株価	
全体の教育目標	経営財務を中心として、企業経営について幅広く学習します。		個別の学習目標	財務の側面から企業活動について理解・評価することができるようになること	

授業の概要

3・4年生合同でゼミを行う。「経営財務」とは資金の調達や運用など、企業経営のうち資金に関係する分野を対象とした学問である。たとえば、企業にはどのような資金調達の手段があるのか？(株式市場から調達するのか、あるいは銀行から借り入れるのか？) そして、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか？(複数ある投資案件のなかからどの投資案を実行するのか？) といった問題について学習していきます。

授業計画

第一回　ガイダンスと参加者の自己紹介
第二回　ゼミの実施

授業の進め方 あらかじめ報告者を決めておき、報告者にテキストの内容を報告してもらった後、他の参加者から質問をしてもらい、その質問内容について討議していく。	**教科書及び参考図書** 【教科書】　未定 【参考書】
試験・成績評価の方法等 平素の出席を前提とし、発言および課題提出で評価	**その他** 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

・4 月に新歓合宿(1 泊)、夏季休暇中にゼミ合宿(2泊)があります。
(HP を参照:http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/)
・テキスト報告と並行して、実際の企業の財務データを基に企業分析を行ってもらいます。
・3 年の夏季休暇中に、3-5 名程度のグループで、CFA 協会 Research Challenge に参加してもらいます。
・3 年の後期に、各自でテーマを定め、ゼミ論を書いてもらいます。
・4 年の後半に就職内定先の企業・業界を対象とした論文を書いてもらいます。

応募に当たっての注意

登録を希望する学生は、できるだけ説明会に出席してください。なお、他の講義への出席などの「正当」な理由で説明会へ出席できない学生は、事前にメール(otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡をしてください。その場合は個別に対応します。
選抜が必要な場合は、説明会への出席の有無や書類選考により選抜を行います。

経済･経営学演習　　（　岸野　早希　ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	人的資源管理	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	岸野早希	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・Ⅱ		キーワード	人的資源管理、組織行動	
全体の教育目標	専門知識を活かして物事を様々な角度から考えられるようになること		個別の学習目標	企業経営における「ヒト」という経営資源の重要性を理解すること	

授業の概要
このゼミでは人的資源管理論や関連分野である組織行動論、経営組織論を中心とした研究を行っていきます。3年次には教科書の輪読やチーム研究を通じて卒業論文に向けた専門知識の習得や研究方法を学びます。また、これらの活動を通じて卒業論文につながるテーマを見つけてもらい、4年時にはそのテーマに基づいた卒業論文に取り組んでもらいます。
通常は3・4年別で実施しますが、夏休みゼミや卒論報告会、親睦会等は3・4年合同で実施します。

授業計画
＜3年生前期＞第1回　ガイダンス、第2回～　指定図書の輪読、チーム研究
＜3年生後期＞合同ゼミに向けたチーム研究、卒業研究の草案
＜4年生＞卒業論文執筆

授業の進め方
前期：指定図書の輪読が中心
後期：チーム研究、発表準備が中心

教科書及び参考図書
【教科書】
鈴木竜太・服部泰宏編著(2019)『組織行動：組織の中の人間行動を探る』有斐閣
上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2018)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
小宮あすか・布井雅人(2024)『Excel で今すぐはじめる心理統計 第２版 簡単ツール HAD で基本を身につける』講談社
【参考書】

試験・成績評価の方法等
出席、課題への取り組み、ゼミへの貢献を総合的に評価します。

その他
演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項
･他大学との合同ゼミを実施しますので、授業時間外での活動や遠征費が発生します。
･卒業論文を書きます。

応募に当たっての注意
･ゼミへの参加を希望する場合はミスマッチを避けるために、必ずゼミ説明会に出席してください。説明会はハイフレックスで開催する予定です。(※説明会が授業と重複する場合は、メールをいただければ資料を共有します。)

・オープンゼミはなし。
・ゼミの志望理由書については「なぜ本ゼミに参加したいのか、将来どのようなキャリアを考えているか」という点を必ず含めて作成してください。
・募集状況によっては面接を実施する可能性がありますので、申込書に必ず連絡がとれるメールアドレスの記載をお願いします(※面接はオンラインで実施予定)。
・経営学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。
・ゼミ説明会に関する情報等は Moodle の「2026 年度通年・火 4 火 5・経済・経営学演習(岸野　早希)」の第 15 回に掲載する予定ですので、ご確認ください。

経済･経営学演習　　（　大石桂一　ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	企業会計	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	大石桂一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計、財務諸表、企業分析	
全体の教育目標	会計情報を使いこなせるようになること､グループ･ワークができるようになること、およびプレゼンテーションとディスカッションの能力を高めること。		個別の学習目標	財務会計の制度と理論を理解したうえで、企業を分析する力を養うこと。	

授業の概要

本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためには、まず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、ある程度はルールを学ばなければならないからである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。

また、ゼミは基本的に 3・4 年生合同、2 コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。

授業計画

前期は、基本的なテキスト（受講者と相談の上で決定する）をもとに、財務会計の制度と理論について理解し、後期にはそれを応用して具体的な分析・研究を行うことを考えている（グループ・ワーク）。後期の具体的な分析・研究内容については、受講者の理解と関心に応じて決定する。

また、年度末には各自あるいはグループでの分析・研究の結果をゼミ論文にまとめてもらう。

授業の進め方

あらかじめ報告者（グループ）を決め、プレゼンテーションとディスカッションの形式で行う。

教科書及び参考図書

教科書・参考書は受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。

試験・成績評価の方法等

平素の成績（プレゼンテーションのレベル、ディスカッションの内容と積極性、および勤勉性）と年度末のゼミ論文で評価する。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

・本演習では学生による自主的な運営を旨とする。テーマや分析対象の選定、ゼミ合宿や飲み会の企画、学園祭への参加、インゼミの開催、および工場見学や企業訪問の計画など、自由に意見を出し合って、相談してほしい。その際に私はアドバイザーとしての役割を果たす。

・年度末のゼミ論文（個人で書いてもよいし、グループで書いてもよい）の提出は必須とする。

応募に当たっての注意

・オープンゼミは実施しない。

・受講希望者はゼミ説明会には必ず参加すること。授業との重複など、正当な理由により参加できない場合は、メールにて連絡のうえ（oishik@econ.kyushu-u.ac.jp）、指示を仰ぐこと。

・希望者多数の場合は、申込書に基づき選抜する。選抜に当たっては志望理由を重視する。

・推奨基本科目（会計学Ⅰ・Ⅱ）の履修（単位取得ではない）を応募の条件とする。

経済・経営学演習　（潮﨑智美ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		**講義題目**	財務会計	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	潮﨑智美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。		**キーワード**	会計学、財務会計、企業分析	
全体の教育目標	ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルを習得することを目的としています。		**個別の学習目標**	財務諸表が読める。 企業を総合的に分析できる。	

授業の概要

本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習するのと同時に、インターネットやデータベースなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学びます。前期は 3・4 年合同、後期は別に開講する予定です。

授業計画

第 1 回目のオリエンテーションの後、前期は「財務会計」または「企業分析」領域の文献の輪読（3・4 年生）を行います。後期には、3 年生は例年「日経 STOCK リーグ」に参加し、バーチャル投資を体験するとともに、グループワークを通じて財務諸表分析を中心としたレポートを作成します。グループワークでは、インターネット、新聞・雑誌、図書館資料、各種データベースなどを活用して企業の財務・非財務情報を収集し、投資テーマの設定と投資対象企業の選定を行います。そのうえで、企業分析や業界分析を通じて投資判断の根拠を検討し、レポートにまとめます。4 年生は、学生それぞれの進路に沿ったテーマを選択し、卒業論文を執筆します。

ゼミ論文および卒業論文では、企業の経営戦略・事業活動と会計の関係、財務報告・情報開示、会計基準・会計制度など、財務会計・国際会計に関連するテーマを研究対象とします。国際比較を通じて共通点や相違点を明らかにし、その背景や要因について考察することを求めます。

授業の進め方

【前期】担当者によるテキストや研究内容の報告
⇒ディスカッション
【後期】3 年生：グループ・ワーク
4 年生：卒論作成・報告

教科書及び参考図書

【教科書】学生の適性や希望を考慮の上、決定します。参考までに、2026年度は、伊藤邦雄（2026）『新・現代会計入門第7版』日本経済新聞社出版、2025年度は、伊藤邦雄（2025）『企業価値経営』日本経済新聞社出版を輪読しました。
【参考書】ゼミ内で指示します。

試験・成績評価の方法等

出席状況、授業態度（ゼミへの関わり方や発言内容）レポートなどにより評価します。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。

ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミ論文・卒業論文を作成し、報告してもらいます。
- インターゼミ、企業訪問、講演会、交流会、ゼミ合宿、ゼミコンパなど、学生の自主性を尊重して決定します。

応募に当たっての注意

- オープンゼミは実施しません。
- ゼミ説明会を 1 回実施します（別途掲示：12 月月曜 5 限目 D-106 予定）。参加必須ですが、やむを得ず参加できない場合には、その旨、メールで知らせてください。shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp
- 申込書には、簡単な自己紹介・自己 PR に加え、大学生活においてこれまでに何をしてきたか、これから何をする予定であるか、大学を卒業して何をするつもりかを含めてください。
- 選考が必要な場合には、まず志望理由を重視し、成績も考慮したうえで決定します。

経済･経営学演習　（小津ゼミ）

授業科目名	**経済･経営学演習**		**講義題目**	会計学の基礎を学ぶ	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	**小津 稚加子**	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰまたは Ⅱを履修していること		**キーワード**	財務会計、財務報告、グループワーク	
全体の教育目標	財務諸表の読み方･解釈の仕方の基礎を学び､学部レベルの専門的な文章力を身につけ､プレゼンの仕方を習得する		**個別の学習目標**	① 企業の財務報告の仕組みを理解する ② 希望者は修了研究を作成する	

授業の概要

財務諸表を読み、財務報告の仕組みが理解できると企業社会が見えてきます。この演習では、将来、身近な上場企業が公表する会計情報を読み、企業の戦略、リスクやリターンについて理解できるようになることを目標に、その基礎となる財務会計の制度を学習します。毎回のゼミを通して、ゼミ生が少しずつ学習成果を実感できるようにします。

授業計画

１年間を３つのサイクルに分けて学習を進めます。第１サイクル（前学期：4月から6月）では、財務会計に関する基本テキストを輪読し基礎を身につけます。グループで進めます。第２サイクル（7月）では、基礎学習の復習と修了研究のテーマ決め、合宿、インゼミに向けての意見交換をします。第３サイクル（後学期）は、修了研究を進めます。各自やりたいテーマを掘り下げるひと、グループワークをするひと、1冊本を決めて書評を書くひともいます。インゼミで口頭報告するひともいます。1年間の学習の成果として修了研究を執筆したひとは、最後に冊子体に印刷またはPDFにします。
※修了研究は希望者のみ。修了研究を執筆しないひとは、輪読をつづけます。

授業の進め方

３・４年生混合でグループ分けをします。順番に、報告班、質問班、司会班を持ち回ります。レジュメおよび質問は、原則、3 日前までに提出ボックスにいれます。事前準備が必要です。

教科書及び参考図書

【教科書】辻山栄子編著『財務会計』中央経済社

【参考書】Moodle で適宜、紹介します。

試験・成績評価の方法等

出席を前提とし、平素のゼミ活動（予習、発言、貢献度）と修了研究など考慮して総合的に判断します。

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画､その他特記事項

・年２回、コンパ、食事会をします（新歓と追い出し）。

・卒業生は、国家試験（税理士、公認会計士等）、就職活動、留学、部活、サークルをしながら、自分がやりたいこととゼミ活動を両立してきました。

・ゼミ合宿および他大学とのインゼミ、修了報告書の執筆は、大切なイベントです。

※ゼミ卒業生（学部、大学院）の進路は、ゼミ説明会で紹介します。

※簿記検定試験や国家試験の受験準備をするひとは、受験前に休暇をとってがんばってください。

応募に当たっての注意

・ゼミ説明会には必ず出席し、分からないことは直接ゼミ生や教員に質問してください。

※ゼミ説明会はハイブリッド開催です。先輩がプレゼンします。

※教室で参加する方は、イースト 2 号館 E205 へ。

※オンラインで参加する方は、下記のリンクから。

第 1 回説明会：12 月 1 日（火）15：00～（30 分程度）

https://teams.microsoft.com/meet/485996475080405?p=FhciduvYAzjfzx7tUD

第 2 回説明会：12 月 15 日（火）15：00～（30 分程度）

https://teams.microsoft.com/meet/483363358924214?p=jsyoWTn2XrMDWfqq8m

・万一、出席できないときは、欠席理由を明記し、ozu@econ.kyushu-u.ac.jp へ連絡すること。

・ゼミ生の選抜にあたっては、次の事項を重視します。

① 会計学･財務報告の勉強を希望していること

② ゼミ学習と運営はグループ作業なので、同期生、先輩･後輩と仲良くできること

③ 無断欠席しないこと（就職活動やサークル活動がある場合でも、ゼミ教員と他のゼミ生に連絡できること）

経済･経営学演習　　（　加納　拡和　ゼミ）

授業科目名	経済･経営学演習		**講義題目**	戦略経営	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・経営学Ⅱの履修が望ましい		キーワード	経営学、戦略経営、国際経営、企業家精神	
全体の教育目標	経営学に関する研究活動を通じて、複雑な経営現象を客観的に説明、理解するための「ものの見方」や「考え方」を培う。		個別の学習目標	・ 戦略経営論の主要な概念や理論を習得する ・ 理論に基づいて現実の現象を客観的に説明することができる ・ 説得的に自らの主張を展開できるようになる	

授業の概要

本ゼミの研究テーマは戦略経営です。今日の技術や市場が目まぐるしく変化する事業環境においても高いパフォーマンスを発揮し続ける企業が観察されています。こうした企業の持続的競争優位の源泉を解明することが戦略経営論における中心的な課題です。企業の競争力の規定する要因や企業が策定、実行する戦略は多岐にわたるため、戦略経営論のテーマも広範に及びます。本ゼミでは戦略経営論を網羅的、体系的に学習するとともに、グループ研究や卒業研究を通じてゼミ生の関心のあるテーマについて深堀りしていきます。

※本ゼミでは受講者の興味関心を最大限尊重します。3年次のグループ研究、4年次の卒業研究においては戦略経営論以外のテーマでも構いません。

授業計画

◎3年生の学習内容

・ 戦略経営論や経営学全般に関わる書籍や研究論文を輪読方式で読み進め、知識の習得を図ります。
・ グループ研究も並行して行い、研究の一連のプロセス（テーマ決定、先行研究の渉猟、分析、論文の執筆/研究報告）を経験してもらいます。インゼミ等を開催し、研究成果を積極的に公開します。

◎4年生の学習内容

受講者が自ら決定した研究テーマに基づいて卒業論文を執筆します。定期的に中間報告を行い、担当教員や受講者間で議論しあうことで、4年間の集大成にふさわしい研究論文を書き上げます。

授業の進め方 演習形式で授業を行います。	**教科書及び参考図書** 【教科書】 戦略経営論や経営学全般に関するテキストを適宜紹介します。
試験・成績評価の方法等 平素の出席を前提として、課題提出、議論への貢献、グループ研究や卒業論文の品質を評価する	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

- 懇親会やインゼミ等を行うことを想定していますが、必ずゼミ生と相談の上で各企画の開催を決定します。
- 何かにチャレンジする学生に対して最大限サポートします。留学される学生には Zoom 等を用いて遠隔指導を行います。また大学院を希望される学生に対しては個別で指導します。
- ゼミの活動や雰囲気についてはゼミ生管理の Instagram（kanou_zemi）をご参照ください。

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会は必須ではありませんが、ミスマッチを防止するために参加を強く推奨します。
- 何らかの事情でゼミ説明会に参加できなかった場合、メールでの相談、問い合わせも受け付けています。kano@econ.kyushu-u.ac.jp
- 上記の学習方針に基づいてゼミを運営するため、一定の課題が発生します。また、グループ研究や卒業論文を進めるためには、かなりの時間と労力が必要になります。時間外の学習を厭わず、意欲をもってゼミに取り組むことができる方の受講を望みます。
- ゼミは教員と一緒にゼミの運営を作り上げていく共同体だと認識しています。ゼミの運営にも貢献意欲をもって関与してくださる方を歓迎します。

経済工学演習　　（阿部貴晃ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	**ゲーム理論**	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	阿部貴晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	**ゲーム理論**	
全体の教育目標	他者に論理的に分かりやすくアウトプットできるようになる。他者の報告に対してコメントできるようになる。		個別の学習目標	ゲーム理論を専門的に学ぶ。モデルを作成して、社会的事象を分析し議論できるようになる。	

授業の概要
ゲーム理論を専門的に学習します。３年生はゼミメンバーで教科書を読み、それぞれが発表（輪読）を行います。４年生は各自が興味を持った内容で卒業論文を作成することを目標とします。
皆様のご応募をお待ちしています。

授業計画
ゼミメンバーで相談して決定します。

授業の進め方 各受講者が、それぞれの割り当てられたテキストの章を順々に発表します。発表者以外は質問とコメントをします。４年生は卒業論文の進捗を報告します。	**教科書及び参考図書** 【教科書】 ゼミメンバーの興味に応じて決定します。 【参考書】
試験・成績評価の方法等 平素の成績で評価します。	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項
卒業時に、「大学でこのような研究をしていました」と言えるようになることを目標とします。進んで学習したい方にはサブゼミを開催していて、学生2,3人と院生や阿部との会話形式で、進んだ内容を習得できます。私はお酒を飲みませんが、飲み会・遊びのイベントなどはゼミ生の希望に応じて開催しています。3・4年生の二年間履修することを前提とします。最新の情報やゼミの様子はゼミ情報サイトをご覧ください。

応募に当たっての注意
「ゲーム理論に関心がある」「楽しく議論できる」方を募集しています。また、大学院に進学したい方も歓迎します。お出かけや飲み会など各種イベントを取り仕切ってくれる方も歓迎します。ゼミ説明会は複数回実施しますので、いずれかに一度は参加してください。最新の情報やゼミの様子はゼミ情報サイトで見ることができます。
ゼミ説明会に参加できなかったが応募したいという場合は、メール takaakiabe@econ.kyushu-u.ac.jp にてご相談ください。また、個別の相談や問い合わせも、メールにて受け付けています。

経済工学演習　　（藤田　敏之 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	環境経済学とゲーム理論	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	積極的に学び，協調性のある人．数理的思考が好きな人．		キーワード	環境規制，外部性，環境評価，資源，廃棄物，非協力ゲーム，戦略，均衡	
全体の教育目標	環境経済学，ゲーム理論を深く学ぶ．報告を行い他人の報告を聞くことによって効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ．		個別の学習目標		

授業の概要
環境経済学とゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ．3年ゼミでは教科書を読み，環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける．4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み，専門的な分野にふみこんで学習する．現在のところ，3・4年ゼミは別々に行う予定である．ゼミ論文を課すことはしないが，年度末には全員にレポートを課す．

授業計画
前期，後期ともにおおまかに以下の予定で進める．受講者数によって細かなスケジュールは変化する．
第1回・・・ガイダンス，自己紹介
第2回～第4回・・・教員による補足的講義
第5回以降・・・受講者による報告および討論（受講生1人につき各期最低1回の発表をお願いしたい．）

授業の進め方
演習形式で行う．教員が講義をするのではなく，受講者の発表と討論によって授業を進めるので，報告者が責任をもった報告を行うことと受講者の積極的な参加を希望する．

教科書及び参考図書
【教科書】（予定）
大沼・柘植『環境経済学の第一歩』有斐閣
岡田『ゲーム理論・入門 新版』有斐閣アルマ
【参考書】なし

試験・成績評価の方法等
出席を重視する．欠席回数に応じた基本評価をもとに発表内容により調整する．詳細は説明会で説明する．

その他
演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる．

ゼミの企画、その他特記事項
本ゼミではすべての受講生が卒業時に胸を張って専門的な学習ができたと言えるようなレベルに達することを目指し，そのサポートをする．環境経済学やゲーム理論を究めたいという強い意欲をもつ学生と一緒に学んでいきたい．ゼミ生が将来自分の研究仲間となって，ともに刺激しあうというのが私の夢である．各種企画は受講生の意欲や希望に応じて検討する．

応募に当たっての注意
オープンゼミの予定はありません．説明会はオンデマンドという形で開催します．参加を希望する学生は，moodle 上にアップロードされる説明会の動画を視聴した後に，申込書で以下を明記してください．
1．これまでの学生生活の振り返り
2．環境経済学またはゲーム理論に対する想い
3．ゼミに期待したいこと
4．趣味などについての特記事項，アピールポイント（任意）
全体で申請書のスペースの 8 割程度以上書いてください．ゼミ生を選考するにあたって，**成績よりも申込書の内容を重視します**．
質問のある方はメールアドレス tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp まで連絡をお願いします．

経済工学演習　　（池下 研一郎　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	経済成長のメカニズム	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	池下　研一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特にありません。		キーワード	マクロ経済学・経済成長・投資・教育・技術進歩・開発経済学	
全体の教育目標	➢ 経済成長の「なぜ？」を理論・データ・歴史・現代の課題を横断しながら理解する。 ➢ プレゼンや論文執筆を通じて自分の考えを論理的かつ魅力的に伝える力を身につける。		**個別の学習目標**	➢ 経済成長を説明する標準的な理論モデルを操作できる。 ➢ 経済成長論におけるデータ分析とその課題を説明できる。	

授業の概要

なぜ、成長できる国とできない国があるのか？経済成長は、どのような理論によって説明されてきたのか？「経済成長」というテーマは、マクロ経済学という分野が生まれる前から、経済学の重要なテーマであり続けています。2024年・2025年には２年連続で経済成長に関する研究がノーベル経済学賞を受賞しています。このゼミでは、これらの研究成果を踏まえ、経済成長論の主要な理論と実証研究を、歴史的な流れを踏まえ、AIの急速な発展、格差の拡大といった現代の問題意識と関連させながら学びます。

授業計画

前期は経済成長に関する標準的な理論を学びます。具体的には①ソロー・モデルなどの新古典派成長モデル、②教育と人的資本蓄積、③技術進歩のメカニズム、④経済成長の要因をめぐる実証といったテーマを学びます。その過程で成長分析に役立つ様々なツール（数学的ツール、Pythonを用いたシミュレーションなど）についても理解を深めます。また英語で書かれた学術論文を読むことにもチャレンジします。後期には、ゼミでの学修内容を踏まえた上で、学術論文（3年生はゼミ論文，4年生は卒業論文）を執筆します。もちろん、論文の書き方についても丁寧に指導を行います。

授業の進め方 報告者によるプレゼンテーションと参加者によるディスカッションを中心に授業を進めます。必要に応じて、大学院生が参加し、議論のフォローを行います。	**教科書及び参考図書** 【教科書】植田健一『経済成長』日本評論社，2026年【参考書】戸堂康之『開発経済学入門』，新世社，2015年
試験・成績評価の方法等 ゼミでの報告，議論での参加状況，課題の提出，ゼミ論文をもとに評価を行います。	**その他** 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

➢ 必要に応じて、研究室に所属する大学院生に参加してもらうこともあります。

➢ 懇親会（飲み会？）もたまには開催したいと思っています。

応募に当たっての注意

➢ ゼミ説明会への参加は任意ですが，できるだけ参加してください。ゼミについて質問がある場合には次のアドレスにご連絡ください（ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp）。

➢ オープンゼミは実施しません。

➢ 応募者が多数の場合には，志望理由書の成績と熱量を考慮して選抜します。

経済工学演習　　（　瀧本 太郎　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	データサイエンス入門	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	瀧本 太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	事前の準備やゼミでの発言はもちろん，積極的にゼミ活動に参加することに加え，“知的好奇心”と“やる気”		キーワード	統計分析，因果推論，R，Python	
全体の教育目標	✓統計的手法に基づく分析 ✓プレゼン能力を養う ✓グループ学習・研究・発表を通じ，広く社会性を養う ✓国際性と英会話力も少し ✓研究を楽しむ		個別の学習目標	自分でテーマを見つけ，ゼミでの分析を通じて，データサイエンスの専門家としての自信をつけること	

授業の概要

無料で配布されている統計ソフト「R」と「Python」を使って，様々な統計的分析手法とその応用例を学びます．特に，貪欲に知識を吸収し，データサイエンスに関する知識をこれからの人生における強力な武器にしたい人におすすめです．

授業計画

ゼミは3・4年生合同，2コマ連続の予定
1.　前期：『社会科学のための統計分析入門 上下』，『Pythonで学ぶ効果検証入門』
2.　前期最終日もしくは夏季：ゼミ論文（3年生），卒業論文（4年生）に向けたテーマの設定
3.　後期：前期の残り，ゼミ論文・卒業論文の作成
通年：各週に公表された統計データについての報告

授業の進め方

報告，実習，解説

教科書及び参考図書

【教科書】
1. ベイリー（2026)『社会科学のための統計分析入門 上下』，勁草書房
2. 伊藤・金子（2024)『Python で学ぶ効果検証入門』，Ohmsha

【参考書】
1. 原（2021)『Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス』，東京図書
2. ストック・ワトソン（2016)『入門計量経済学』，共立出版
3. 西山他（2019)『計量経済学』，有斐閣
4. 蓑谷（2007)『計量経済学大全』，東洋経済新報社

試験・成績評価の方法等

出席，報告，議論への参加，ゼミ論文（3年生），卒業論文（4年生）

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミ論文や卒業論文の執筆を通じて，研究を楽しんでもらえたらと思います．もちろん大変なこともありますが，新しい発見に興奮する瞬間を一緒に味わいましょう．
- これまでゼミ合宿や他大学（京都大学，山形大学，兵庫県立大学，創価大学，国立台湾大学など）とインターゼミナールをしていますが，2027 年度については皆さんと相談して決めたいと思います．その他，他ゼミと合同 BBQ やスポーツ大会などもしています．
- モザンビーク共和国，中国，韓国，ドイツ出身の留学生がゼミで学んでいます．また，今までに 15 名の先輩が交換留学（フィリピン，フランス，イギリス，ドイツ 2 名，アメリカ 2 名，台湾 2 名，シンガポール 2 名，スウェーデン，ベトナム，中国，オーストラリア）に行っています．
- ポスドク 2 名，専門研究員 1 名，博士課程 1 名，修士課程 4 名の学生が，当ゼミで学んでいますので，積極的に院生の先輩と交流してもらえたらと思います．

応募に当たっての注意

- 選抜の際は，志望理由・成績をもとに総合的に判断します．
- 授業や就職活動等でゼミ説明会をやむを得ず欠席する場合は事前に相談してください．
- Moodle 上で情報提供しますので，興味がある方は「2027 年度経済工学演習（瀧本 太郎）に関する案内」のコース登録をお願いします．
- ゼミ説明会への参加は任意です．
- 12/7（月）14:50 から E318 でオープンゼミを行う予定です．お気軽に参加ください．

経済工学演習　（村尾徹士ゼミ）

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">経済工学演習</td><td>講義題目</td><td colspan="2">人工知能</td></tr>
<tr><td>授業科目区分</td><td colspan="2">選択必修科目</td><td>授業科目ｺｰﾄﾞ</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>授業方法
及び開講学期等</td><td>通常講義 通年</td><td rowspan="2">担当教員名</td><td rowspan="2">村尾徹士</td><td rowspan="2">授業対象学生
及び学年等</td><td rowspan="2">3年以上</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>履修条件</td><td colspan="2">特になし</td><td>キーワード</td><td colspan="2">機械学習，Python</td></tr>
<tr><td>全体の教育目標</td><td colspan="2">「作る」ことで理解する</td><td>個別の
学習目標</td><td colspan="2">各自で設定する</td></tr>
</table>

授業概要

現代の人工知能を支える二つの重要な技術である，大規模言語モデル（LLM; Large Language Model）と強化学習について学びます．ChatGPT に代表される LLM は，膨大なデータから言語や知識のパターンを学習し，文章生成やさまざまな問題の解決に利用されています．一方で，強化学習は，「エージェント」とよばれる意思決定主体に，（環境との相互作用を通じて）望ましい行動方針を自律的に獲得させる手法です．強化学習は，ダイナミック・プライシングなどの経済的意思決定にも応用される汎用的な手法ですが，人間の意図や選好に沿った回答を LLM に生成させるためにも利用されてきました．さらに近年では，強化学習によって LLM の推論能力を大幅に高められることも示されています．また，LLM 自体の能力改善にとどまらず，LLM を組み込んだ「AI エージェント」が外部環境から情報を得て推論・行動する仕組みや，複数のエージェントが相互作用する状況を研究するうえでも，強化学習は有力な手法の一つです．

授業計画

- 【3 年次】教科書［1］の輪読を通じて，大規模言語モデル（LLM）について学びます．
- 【4 年次】教科書［2］の輪読を通じて，強化学習について学びます．

授業の進め方

ゼミ形式の授業です．毎週の授業では，1）担当者による教科書の内容の「講義」，2）全員での議論，および，3）教員による補足説明を行います．授業は 3・4 年合同で行います．

教科書

[1] 『ゼロから学ぶ Deep Learning6 LLM 編』，斎藤康毅（著），オライリー出版．
[2] 『ゼロから学ぶ Deep Learning4 強化学習編』，斎藤康毅（著），オライリー出版．

試験・成績評価の方法等

平常点で評価します．

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生のみ登録可

ゼミの企画、その他特記事項

3 年次に福岡女子大学（梶田ゼミ）とのインゼミを実施します．インゼミではグループに分かれて，ゼミの内容にとらわれずに自由にプログラムやアプリを製作します．

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会（ハイブリッド形式）は同内容で 2 回実施します．
- 応募締切後に面談を実施する場合があります．
- その他，ゼミ募集に関する全ての情報は Moodle コース「村尾ゼミ募集 2027」にて提供します．
  - コース URL：**https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=75665**

経済工学演習　　（　三輪　宏太郎　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	行動ファイナンスと株式投資論	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	三輪　宏太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	投資家心理、株価形成	
全体の教育目標	金融の諸問題を，独自に調査・考察し、実務に耐えうる分析能力を身につける		個別の学習目標	投資家心理が、投資行動や資産価格形成に及ぼす影響を理解し、投資戦略に役立てる	

授業の概要

3年、4年別々にゼミを行います（3年は行動ファイナンス・４年は株式投資の予定）。
3年前半部は、テキストを論読し、行動ファイナンスに関する知識を深めることに重点を置きます
後半部は、①教員が提示するケースに関する調査・分析②各人が独自で調査したケースについて発表＆議論し、人間の心理がいかに投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。

授業計画

（前期）
第１回 ガイダンス；ゼミの進め方と輪読・課題内容について
第２回以降　輪読発表など
（後期）
調査・課題発表など
※適宜、金融に関するケーススタディの回などの場を設けます

授業の進め方 基本的に、担当者の発表→質疑応答→教員の解説→課題の議論で進めます。	**教科書及び参考図書** 【教科書】Ackert, Lucy, Deaves, Richard：Behavioral Finance: Psychology, Decision-Making, and Markets （変更の可能性もあり）
試験・成績評価の方法等 発表50%　議論への参加度50%	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

※担当教員は、実務家出身のため、実務的側面を重視した内容となります。
※昨今、就職活動の早期化が進んでいる状況を踏まえ、ゼミ時間以外の企画については、基本的に参加するゼミ生の自主性に委ねることとします。

応募に当たっての注意

※説明会への参加を強く推奨します。
※説明会参加の場合、Moodle コース“三輪ゼミ 2027 年度説明会”
(https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=75626)に登録してください。
※志望理由を重視します。ゼミで学ぶ予定の内容をどのように自分のキャリア形成に生かしていきたいかを中心に書いてください

経済工学演習　　（吉田　賢一ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	事例（ケーススタディ）と実証分析を通じて学ぶ現代企業	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	吉田　賢一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	日本企業の分析、ESG経営、CSR活動、コーポレート・ガバナンス（企業統治）	
全体の教育目標	本演習では、履修生が最新の実証論文を正しく理解する能力を身に付けることを目標とする。		個別の学習目標	実際の社会をデータ分析の結果を通して正しく理解し、建設的な解決法を提案できる能力を育む。	

授業の概要

この演習では、企業経済学、企業統治論、計量経済学などの分野に基づいて現代企業を研究します。主に、3年次には実証分析の手法などを学習します。また、受講生はグループを形成し、グループ単位で企業を対象とした詳細な調査を行い、実際の企業の事例について詳しく調査します。4年次には各自で研究テーマを設定してもらい、そのテーマに基づいて最近の実証分析を多数読み、理解を深めていきます。
3年生と4年生は合同で演習を行うことを基本としますが、それぞれの学年や研究の進捗状況に応じた課題や報告を行います。

授業計画

- まず、実証分析の手法などを学習します。
- 上記と同時に、実際の企業を対象としたケーススタディを受講生が主体的に行います。
- そのうえで、受講生それぞれが自分で選定したテーマのもと、主に最近の実証研究を多数読み、自らがその内容を正しく理解すると共に、他者に対しても説明できる能力を身に付けていきます。

授業の進め方

一部、教員による講義を予定するが、主には受講生が報告者となり、他の受講生との質疑・議論により進められる通常の演習形式の授業を想定している。

教科書及び参考図書

【教科書】
演習内で適宜指示します。
【参考書】
演習内で適宜指示します。

試験・成績評価の方法等

出席状況と、演習への貢献を考慮し、評価します。積極的な発言（提言・意見など）を求めます。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

- 基本的には履修者の皆さんの自主性に委ねます。積極的な提案を求めます。
- BBQ や各種親睦会は、セメスターごとに適宜開催する予定です。
- 履修中に留学を実施する等、事情を考慮すべき点がある場合にも可能な限り柔軟に対応します。

応募に当たっての注意

- 必須ではありませんが、可能な限り 3 年次、4 年次の連続での履修を求めます。
- オープンゼミは実施しません。
- 履修希望者は、ゼミ説明会に可能な限り参加してください。やむを得ない事情により参加できない場合には、そのことをもって選考上不利に扱うことはありません。
- 選抜が必要な場合には、面接を実施し、志望理由などに基づいて総合的に判断します。申込書では、特に本ゼミを志望する理由や、関心を持っている研究テーマ・企業・社会問題等を確認します。成績のみを基準として選抜することはありません。

経済工学演習　　（　葉　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	行動経済学による個人や企業の行動への分析	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	葉　聰明 （Tsung-ming Yeh）	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		**キーワード**	行動経済学，行動ファイナンス	
全体の教育目標	個人や企業の行動を経済学的に分析し，個人の効用や企業価値への影響について評価することができること		**個別の学習目標**	● 自主的学習の習慣 ● プレゼンのスキル ● コミュニケーション能力	

授業の概要

古典経済学のアプローチでは、人間・企業は理性的に行動する、つまり、限られる資源の中で、効用・利益を最大化するような行動をとるという前提になっている。一方、『行動経済学』のアプローチでは、人間が様々なバイアス（偏り）を持ち（例えば、経験則や横並びの意思決定を行い）、それが企業・投資家・家計にどのように影響し、どのような結果（企業価値、株価、消費・貯蓄など）をもたらすのかについて分析する。

このゼミでは個人や企業の行動を、古典経済学の考え方と比較させながら、『行動経済学』の考え方を用いて分析する方法を勉強する。具体的な個人・企業行動について、個人による消費（買い物）、貯蓄、投資等、企業による投資、資金調達、M&A（企業合併買収）などを取り上げる予定である。

授業計画

前期では行動経済学（ファイナンス）の定番的な教科書（外書）を使って勉強する。
後期では行動経済学（ファイナンス）に関する研究論文を読み、最新の研究結果を把握する。

授業の進め方 教科書の章や研究論文をメンバーが分担して報告し、そのうえでゼミ全員で議論する。	**教科書及び参考図書** 海外の定番的な教科書（外書）を使う予定である。
試験・成績評価の方法等 80%授業への貢献（報告や討議など） 20%レポート（もしくはその他の成果物）	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

海外(アジア)の大学生との学術交流を行うセッション(一回)が開催される可能性がある。

応募に当たっての注意

ゼミ説明会:参加必須。
ゼミ選抜基準:履修状況や成績など総合的に判断。
オープンゼミ実施:なし。
授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合、別途面談。

経済工学演習（堀　宣昭　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	理論経済学 （企業経済学）	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀　宣昭	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済学入門、【基本】ミクロ経済学 I, II、マクロ経済学 I, IIの単位修得。		キーワード	企業経済学・産業組織論	
全体の教育目標	自分の理解・アイデアを論理的・効果的に表現する能力を涵養する。		個別の学習目標	授業の概要を参照。	

授業の概要

本ゼミでは、２年間の演習を通じて、ミクロ経済理論・マクロ経済理論の広範な応用分野を学習する。
ミクロ経済学では、ゲーム理論や情報の経済学の企業経済分野、公共経済分野への応用を学ぶ。マクロ経済学では、日本経済、国際経済学への応用を中心に学ぶ。ゼミは、3-4年合同で行う。

令和9年度は、企業経済学のテキストを講読し問題演習を行う。

授業計画

【前期】
第Ⅰ部：ミクロ経済学の基礎
第Ⅱ部：寡占
【後期】
第Ⅲ部：参入と市場構造
第Ⅳ部：非価格戦略

授業の進め方

教科書の各章について、
- 本文部分を担当者が報告し、全員で内容について議論する。
- 演習問題は全員が解答を作成し、担当者が自分の担当問題を解説する。

教科書及び参考図書（予定）

ルイシュ・カブラル著
『企業の経済学・産業組織論入門』2023, 日本評論社.

試験・成績評価の方法等

報告の内容及び平素の学習態度（出席も含む）。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

- 本ゼミでは、二年間の演習を通じて、ミクロ・マクロを問わず、経済学の理論を究めてみたいという学生を歓迎します。
- 令和 10 年度は、マクロ経済学分野のテキストの講読を予定します。
- 通常ゼミでのテキストとは別に、テクニカルではない経済哲学、政治哲学に関する文献を集中的に講読する時間（合宿？）を別途考えたいと思います。この企画は、本ゼミ生に限らず、広く参加を募る予定です。

応募に当たっての注意

- オープンゼミは実施しません。応募に当たってゼミ説明会への参加は必須ではありませんが、本演習の意図、目指すところについて説明します。ミスマッチを防ぐためにもできるだけ参加しておいてください。（ゼミ説明会の録画は公開します。）
- 応募者多数の場合は面接をすることがあります。

経済工学演習　　（菅　史彦ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	計量経済学（因果推論）分析	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	菅　史彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましいですが、並行履修でも構いません。		キーワード	ミクロデータ分析、計量経済学、労働経済学	
全体の教育目標	データから何がわかって何がわからないのかを知ること。 自分の考えの正しさ・確からしさを示すために、自分でデータを分析できるようになること。 自分の考えを人に伝えるための技術を磨くこと。		個別の学習目標	３年生の目標は、統計学・計量経済学の有用性と限界を理解し、統計ソフトR（もしくはPython）を使いこなせるようになること。 ４年生は、各自でテーマと分析したいデータを見つけ、統計ソフトを使って自力でデータ分析ができるようになること。	

授業の概要

ICT技術の発展により、データ分析の技術や知識が活きる場面が増えています。自分のアイデアが優れていることを示したり、自分の主張が正しいこと、あるいは誰かの主張が間違っていることを証明したりしたいときに、データ分析は強力なツールになります。また、生成AIの発達によってデータ分析が容易かつ身近になった一方で、生成AIに何をさせるのかを考え、生成AIから出力された結果を評価し、解釈するためには、統計学・計量経済学に関する基本的な理解が不可欠です。

データ分析にも様々なトピックがありますが、菅ゼミでは因果推論をメインテーマに据えています。因果推論とは、データから変数間の因果関係（原因・結果の関係）を見出す手法のことです。一般に、相関関係（二つの変数が連動していること）は、必ずしも因果関係を意味するとは限らず、見せかけの相関や逆の因果に多くの人が騙されがちです。因果推論を学ぶことで、どのような情報や変数があれば、変数間の因果関係を証明することができるのかを知ることができます。また、それを知ることで、世の中で一般的に用いられている統計分析の問題点やごまかしに気づくことも可能になります。

本演習では、データ分析（統計学・計量経済学）、特に因果推論に関する基本的な知識を身に着けてもらうとともに、実際に統計ソフトを使ってみることで、データ分析の技術を習得してもらうことを目的としています。それにより、データを使って何が出来て、何が出来ないのかを知り、皆さんがデータ分析を将来の仕事や日々の暮らしに役立てることができるようになることを目指します。

ゼミは基本的には３、４年生合同で、大学院生にもたまに参加してもらうこともあるかもしれません。

授業計画

【前期】

３年生（ゼミ一年目）は、教科書の輪読（発表＆議論）、およびデータ分析に関する本の発表を平行して行います。教科書の発表では、各回で重要なトピックについて解説してもらうとともに、統計ソフトRとPythonを使い、教科書の例の再現と演習問題の解説をしてもらいます。

４年生（ゼミ二年目）は、各自関心のあるテーマに沿って東京大学社会科学研究所データアーカイブでデータを見つけ、前期の終わりにデータの概要や関心のある変数の分布や基本統計量について発表してもらいます。発表のタイミングについては、就職活動の進捗状況を考慮し、可能な限り柔軟に決めることとします。

【後期】

３年生は、教科書の輪読と本の発表と並行して、東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータを使い、実際にデータを使った実証分析をしてもらいます。

４年生は、後期の最初に分析の背景や先行研究について発表してもらいます。その後、前期に選んだデ

ータを使い、回帰分析等の手法を駆使して分析し、分析結果について冬休み前に簡単に発表してもらい、学期末に分析を修正し全てまとめたものを発表してもらいます。分析結果はデータ利用報告書としてまとめてもらいます。大学院進学者は卒業論文の執筆を必須とします。

前期後期を通して、発表内容に関して私が発表者や他の受講者に質問するとともに、適宜グループディスカッションも行います。また、空いた時間を使って、生成AIを使った資料作成の方法やコードの書き方についても一緒に勉強したいと考えています。

４年生から受講し始める場合は、３年生と同じ内容で発表してもらいます。

授業の進め方

一人20～30分程度で、毎回３～４人に順番に発表してもらいます。基本的にはスライドを使って発表し、内容について全員で議論します。また、教科書に練習問題があるので、解き方をランダムに当てた一人に解説してもらいます。

データ分析は統計ソフトRとPythonを使って実習を行います。前期に統計ソフトの使い方、後期はデータの使い方に関するチュートリアルセッションを行い、３年生のうちに基本的な分析を一通りできるようになることを目指します。

必要に応じて毎回私から質問をし、発表者に答えてもらったり、グループディスカッションを行ったりする予定です。

教科書及び参考図書

【教科書】

James H. Stock & Mark W. Watson (2019) "Introduction to Econometrics", 4th ed.（日本語訳あり）

【参考書】

星野匡郎＆田中久稔（2023）『Rによる実証分析－回帰分析から因果分析へ－』第二版　オーム社

伊藤公一朗（2017）『データ分析の力－因果関係に迫る思考法』

試験・成績評価の方法等

発表（50%）、出席＆授業態度(30%)、宿題(20%)。授業態度は積極性を重視します。

その他

演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できることとします。四年次から受講する学生は、三年生と同じ扱い（同じ発表内容）とします。

ゼミの企画、その他特記事項

- 四年生が提出するデータ利用報告書は、四年次にスライドを使って発表したものを文章にしてまとめ、必要に応じて加筆修正したものを想定しています。
- 卒業論文は、上記のデータ利用報告書にさらに加筆修正を行い、きちんと論文としての体裁を整えたものを想定しています
- 卒業論文の執筆については、希望者のみ指導します。ただし、大学院進学希望者や、(留学などの際に)将来的に推薦状が必要となる可能性があると思う学生は、可能な限り執筆することとします。

ゼミ合宿やインターゼミ等の企画はまだありませんが、希望者がいれば積極的に開催します。

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会はハイフレックスで行います。Moodle に説明会用のページ(『2025 年度通年・経済工学演習説明会(菅　史彦)』)を設置し、そこに Zoom のリンクを貼り付けます。
- ゼミ説明会には可能な限り参加してください。参加できない場合は、Moodle 上にアップされた資料を参照し、質問がある場合はメール(f.suga"at"econ.kyushu-u.ac.jp)に連絡してください。

応募数が上限を超えた場合には、統計学・計量経済学への理解度、関心のあるテーマとGPAに基づいて書類選考を行います。そのため、演習参加申込書には、

① 統計学や計量経済学に関係する講義をこれまでに受講したことがあるか、あればその時の成績、

② 興味・関心のあるテーマ(統計学や計量経済学でなくても構わない)、

③ GPA

を明記してください。

経済工学演習　　（小室 理恵ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	微分方程式を用いた数理モデリング	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	小室　理恵	**授業対象学生及び学年等**	３年次以上
単位数	４単位				
履修条件	基幹教育「微分積分学Ⅰ・Ⅱ」「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解していること		**キーワード**	数理モデリング，常微分方程式	
全体の教育目標	様々な分野における現象を数式（特に微分方程式）で表現することで，数学がどのように実社会で応用されているか理解を深める．		**個別の学習目標**	教科書を読んで内容を理解するだけでなく，論文等他の参考文献を読んで発展的に学修する能力を身につける．	

授業の概要

現象を数式で表すことを数理モデリングという．微分方程式は数理モデルとしてよく使われる手法であり，物理や生物の現象を説明するための非常に有効なツールである．経済学の分野でも微分方程式を用いて様々な数理モデルを構築することができる．また，数年前の大きな関心事であった感染症の広がりを表すのにも用いられている．

この授業では，微分方程式を用いた数理モデルを扱う．様々な分野における現象を微分方程式で表すこと，さらには得られた結果の分析方法についても学修する．

２年目以降の受講者とは別に行う．

授業計画

まずは教科書を読み進めて基礎固めを行い，途中で何度か数理モデルを使った応用例（絵画の年代測定，感染症の広がり，生物の捕食-被食関係等々）を取り上げる．基礎知識をある程度得た後，ソフトウェアを用いて数値的解法や解の分析方法を学修する．

授業の進め方 輪講形式で教科書を読み進める．	**教科書及び参考図書** 【教科書】いくつかの選択肢の中から，受講者と相談して決定する．
試験・成績評価の方法等 原則として出席（参加）必須である．成績は，授業への参加，授業での発表等で総合的に評価する．	**その他** 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる．

ゼミの企画、その他特記事項

数学が「得意」である必要はないが，数学に拒否感がないことが参加の条件である．

応募に当たっての注意

ミスマッチを避けるため，履修希望者はゼミ説明会出への出席が望ましい．

説明会後に Moodle コースページ「2027 年度経済工学演習説明会（小室ゼミ）」に当日使用する資料を掲載予定である．

https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=75701

志望理由を重視する．

メールでの質問は随時受け付ける．（rie.komuro’at’econ.kyushu-u.ac.jp　’at’を@に変更）

経済工学演習　　（大西俊郎ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	データ解析のための数理統計入門	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	（記入不要）	
授業方法及び開講学期等	通常講義　通年	**担当教員名**		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数Ⅰ・Ⅱおよび数理統計学Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること．		キーワード	線形回帰，ロジスティック回帰，分散分析，Bayes統計とMCMC法，ブートストラップ法，ノンパラメトリック検定，生存時間解析，多変量解析	
全体の教育目標	✓　統計学の理解の深化 ✓　プレゼンテーション能力の向上		個別の学習目標	✓　Bayes統計学および頻度主義の統計学の理解 ✓　プログラミング言語の習得	

授業の概要

データ解析に必要な数理統計学のさまざまな手法を学ぶ．近年注目を集めているBayes（ベイズ）統計学も含まれる．

統計学は科学の文法と言われることがあり，自然科学・人文科学・社会科学の幅広い学問分野で実証分析・データに基づいた意思決定に用いられている．Bayes統計学の特長は，事前情報とデータを統合することによって合理的な推測を可能にする点にあり，未知パラメータの個数が多い場合にパフォーマンスがよいことが知られている．ビッグデータでは多数の未知パラメータを含む統計モデルが用いられるため，Bayes統計学は今後その重要性がますます高まると予想される．2年次の数理統計学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容は，Bayes統計学と対比して頻度主義の統計学と呼ばれる．

この授業では，定評のある数理統計学の教科書の輪読を通じて，Bayes統計学を含むさまざまな数理統計学の手法を修得することを目標とする．教科書を分担して輪読するセミナー形式で学ぶ．演習は3・4年別に行う（3年生は4時限，4年生は5時限）．

授業計画

1. 3・4年次の全60回（90分×15回×4学期＝90時間）の授業で「データ解析のための数理統計入門」を読了することを目標とする
   (1) 教科書の第1章から第9章は，数理統計学Ⅰ・Ⅱと重なる部分が多いが，数理統計学Ⅰ・Ⅱで取り扱わなかった内容も含まれている．
   第1章　確率モデル，第2章　確率変数と確率分布，第3章　2変数の同時確率分布，
   第4章　期待値と積率母関数，第5章　統計モデルとデータの縮約，
   第6章　大数の法則と中心極限定理，第7章　正規分布から導かれる分布，
   第8章　パラメータの推定，第9章　仮説検定と信頼区間

   (2) 教科書の第14章でBayes統計学の考え方を学ぶ．
   第14章　ベイズ統計とMCMC法

   (3) 第10章から第17章でさまざまな数理統計の手法を学ぶ．単回帰と重回帰は基礎計量経済学Ⅰ・Ⅱでの学習の復習となる．
   第10章　カイ2乗適合度検定と応用例，第11章　回帰分析―単回帰モデル―，
   第12章　重回帰モデル，第13章　ロジスティック回帰とポアソン回帰，
   第15章　分散分析と多重比較，第16章　分布によらない推測法，第17章　多変量解析手法

2. 必要な数学知識を補強する
   1年次に使用した微分積分学と線形代数学の教科書を利用して，必要な数学知識を補強する．

3. プログラミング言語の習得
   Pythonまたは統計ソフトウェアRの初歩的な部分を学び，グラフィック機能を使うことにより教科書の内容を視覚的に理解する．PythonまたはRの利用を通してプログラミングを学ぶことができる．

授業の進め方	教科書及び参考図書
セミナー形式で行う.	【教科書】 「データ解析のための数理統計入門」 久保川達也，共立出版 【参考書】 数理統計学Ⅰ・Ⅱ，微分積分学Ⅰ・Ⅱ， 線形代数学Ⅰ・Ⅱの教科書
試験・成績評価の方法等 演習での発表・質疑応答を総合的に評価する.	**その他** 演習参加申込行い受講を認められた学生だけが登録できる.

ゼミの企画、その他特記事項

1. 統計学の**理論を体系的に修得**することがゼミの特色である．**Python や R によるプログラミングも学ぶことができる.**
2. ゼミ論文の代わりに**統計検定 2 級（3 年次），準 1 級（4 年次）の合格**を課す．2 級は大学基礎科目レベル．検定試験については http://www.toukei-kentei.jp/　を参照.
3. 要望に応じて自主的な勉強会を行うことも可能．経済学部のカリキュラムにない数学（複素関数，ルベーグ積分）の本の輪読，アクチュアリー試験対策を実施したことがある.

応募に当たっての注意

1. **就職活動を理由として経済工学演習の授業を欠席することは認めない.**
2. **ゼミ説明会は参加必須とする．不参加の者は受け入れない.**
3. 申込書には GPA とともに**微分積分学Ⅰ・Ⅱ，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，数理統計学Ⅰ・Ⅱの成績を記入**すること．もし応募多数となった場合は，これら科目の成績を重視して選考を行う.
4. オープンゼミは行わないが，随時相談を受け付ける.

経済工学演習　　（北原　知就　　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	経済学と数理最適化	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	「微分積分学・同演習AB」、「線形代数・同演習AB」の単位を修得していることを必須とします。		キーワード	経済学、数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	
全体の教育目標	論理的･数学的思考能力と、自分の考えを他人に明確に伝えられる力、座学で得た知識を応用する能力の向上を目指します。		個別の学習目標	1. 専門文献を理解できる。 2. 自分が理解したことを他人に自分の言葉でわかりやすく説明できる。 3. 自ら課題を見つけて勉強や研究を進められる。	

授業の概要

AIの発展により、次々に新しい技術が生まれています。生成AIにキーワードを打ち込めば、答えらしきものは返ってきますが、その真偽を見極めなければ、誤った判断につながるおそれがあります。事象を自分で考え、理解する力はどの時代にも求められます。このゼミでは、経済学や数理最適化に関する教科書や論文を精読し、そのような能力を鍛えることを目指します。また、理解した内容を他人に正確に伝える力を、発表や議論を通じて磨いていきます。さらに、知識の習得にとどまらず、それを経済問題等に応用する力も育てていきたいと考えています。

授業計画

本授業は、経済学や数理最適化に関する教科書や論文を精読し、論理的・数学的思考力と、自分の考えを他人にわかりやすく説明する力を鍛えます。また、培った知識を現実問題の解決に応用する実践的な内容も取り入れる予定です。

授業の進め方 日本語または英語で書かれた専門文献を精読します。毎回担当者を決めて発表してもらい、発表内容をもとに議論します。	**教科書及び参考図書** 【教科書】 適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。
試験・成績評価の方法等 発表内容、議論への貢献、出席状況などを総合的に評価します。	**その他** 演習参加の申込みを行い、受講を認められた学生だけが登録できます。

ゼミの企画、その他特記事項

1. 学生の皆さんと意見を出し合いながら、より良いゼミを一緒に作っていきたいと考えています。
2. 皆さんのよい部分を見つけ、伸ばしていけるようなゼミでありたいと思っています。
3. ゼミの企画は学生の皆さんの自主性にお任せします。

応募に当たっての注意

1. ミスマッチを避けるため、面談を実施します。面談を受けていない方は受け入れできません。面談を受けても、必ずしも当ゼミを志望する必要はありません。下記の URL からお気軽にお申し込みください。
   https://forms.gle/fD7BqwGEUABgLcfz9
2. 下記の私のウェブサイトに、ゼミの詳細を掲載しています。参考にしてください。

https://tomonari-kitahara.github.io/website/

3. ゼミ説明会はオンラインで行います。当ゼミへの志望にあたり、参加は必須ではありません。Zoom の URL は Moodle の下記のページに掲載します。説明会に参加を希望される方は、コース登録をお願いします。高専生で説明会に参加を希望される方は、下記メールアドレスに連絡をお願いします。
   https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=72725
4. オープンゼミは実施しませんが、ゼミへの参加を希望される場合はお気軽にご連絡ください。
5. ゼミについてわからないことがありましたら、下記アドレスにご連絡ください。
   tomonari.kitahara’at’econ.kyushu-u.ac.jp (‘at’を@で置き換えてください)

経済工学演習　（　松本　浩一　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	金融工学・数理ファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	松本　浩一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	線形代数，微分積分，基礎的な確率・統計の知識		キーワード	金融工学，数理ファイナンス	
全体の教育目標	金融工学の専門知識の習得		個別の学習目標	Black Scholes 価格式の理解	

授業の概要

金融工学は金融機関における投資，リスク管理，商品開発などのために発展してきた学問である。最近では，天候，地震，不動産，企業経営に伴う事業リスク等も研究対象としており，応用分野は多岐にわたる。今や金融工学は金融機関のみならず，一般企業にとっても有用な学問である。

本講義は，金融工学の専門知識を生かした職務を志望する学生，あるいは研究者を目指す学生を対象としたゼミである。ゼミでは特に数理的専門能力の育成に重点を置く。

授業計画

講義では，金融工学に関する教科書を分担して精読する。金融工学の専門的知識を深めつつ，金融市場に関する知識もバランスよく身に付けていくことが重要である。教科書は受講予定者の希望を踏まえて決定する。

授業の進め方

教科書を分担して担当者が説明し，質疑応答を行うセミナー形式で行う。

教科書及び参考図書

Steven E. Shreve, *Stochastic Calculus for Finance Ⅰ: The Binomial Asset Pricing Model*, Springer Verlag, 2003

ジョン ハル，東京三菱銀行金融商品開発部(翻訳)『フィナンシャルエンジニアリング―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』金融財政事情研究会，2016年

試験・成績評価の方法等

平素の授業での発表，質疑応答を総合的に評価する。

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

文理双方の能力を必要とする。数学，経済，計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。

応募に当たっての注意

本ゼミへの参加を希望する学生は説明会に参加し，定められた日時までに以下の手続きを行うこと。

1．ゼミ説明会は Teams にて行う予定である。

ゼミ説明会の参加希望者には，Teams の URL を連絡するので，説明会前日の正午までに下記の講義の Moodle へ登録を行い，Moodle の指示に従うこと。

2026 年度通年・木 4 木 5・経済工学演習（松本　浩一）

説明会で相談時間を設けるが，説明会に参加できず，個別相談を希望する場合はメールすること。

２．**演習参加申込書（Word）**に下記の内容をすべて記述し，事務に提出すること。

（１）将来の夢，展望（希望職務，大学院進学等，なるべく具体的に記入）

（２）志望動機

（３）ゼミ関連科目成績（以下の基幹教育数学の成績は必ず記入，３年次編入者は対応科目を記入）

線形代数学Ⅰ 線形代数学 II 微分積分学Ⅰ 微分積分学 II

金融工学・数理ファイナンス関連分野（数学，統計，計算機等）があれば記入

（４）自分が当てはまると思うほうを選択せよ。

数学が（好き，嫌い），数学が（得意，苦手）

（５）英語のテキストを使用することは可能か。

（６）２年間，ゼミに集中して取り組むことができるか。

（毎週，十分な予習が必要となるため，副ゼミは不可）

（７）自己アピール

（他のゼミ参加者に，どのような貢献ができるか，理由を明確にして記述すること）

３．必ず，**メール**にて松本までゼミ参加希望の連絡をすること。

本文には必ず氏名，学籍番号を含め，事務に提出した **Word ファイル複製を添付**すること。

なお，重要事項を送付してきたメールに返信連絡する予定であるため，普段から確認しているメールアドレスを用いること。

ゼミ参加申請後，参加希望者全員と Teams による面接を実施する。

経済工学演習　　（ 伊豆永 洋一 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	モデリングとアルゴリズム	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**	―	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	伊豆永 洋一	**授業対象学生及び学年等**	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学Ⅰ・Ⅱ， 線形代数学Ⅰ・Ⅱ を履修済みであること．		**キーワード**	数理最適化，アルゴリズム	
全体の教育目標	数学という共通の言語を用いた論理的な思考法や，明快に表現する能力を身につける．		**個別の学習目標**	数理最適化におけるモデリング技法とアルゴリズムを理解し，それらを適切に活用する．	

授業の概要

近年，機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識する技術が目覚ましい発展を遂げている．そのような収集・認識された情報から意思決定を行うための技術の一つに数理最適化（数理計画法）がある．本ゼミでは，これらの技術の背後にあるモデリング手法やアルゴリズムを理解することを目標とする．また，プログラミング言語によるアルゴリズム実装やそれを用いた応用分析も行う．

授業計画

1. 数学的準備（集合論，線形代数，微分積分）
2. Python を用いた演習

授業の進め方

輪講形式で進行し，各回の担当者が資料を作成し内容を説明する．モデリングやプログラミングに関する演習も実施予定．

教科書及び参考図書

【教科書】

- 『経営工学の数理Ⅱ』宮川雅巳他，朝倉書店．
- 『Pythonではじめる数理最適化』岩永二郎他，オーム社．

【参考書】

- 『しっかり学ぶ数理最適化』,梅谷俊治，講談社．
- 『新版・数理計画入門』 福島雅夫，朝倉書店．

試験・成績評価の方法等

ゼミでの発表・質疑応答および演習への取り組み等を総合的に評価する．

その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる．

ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミで取り扱う内容は，みなさんの興味に応じて柔軟に対応します．
- これまでのゼミの取り組みや成果については，以下の研究室webページをご確認ください．
  https://izunaga-lab.github.io/
- 例年，歓迎会と忘年会 or 新年会を開催しています．それ以外の企画については，学生の皆さんの自主性にお任せします．

応募に当たっての注意

- ゼミ説明会は対面で行います．オープンゼミも実施予定です．
- 説明会やオープンゼミに関する情報はMoodleを通じて提供するので，参加を希望される方は以下のコースに登録してください．
  「2027年度 経済工学演習に関する案内（伊豆永 洋一）」
- 本ゼミを希望される方は，必ず説明会に参加してください．参加が難しい場合は，個別あるいはオンデマンド等にて対応しますので，メールにてご連絡ください．
- 演習参加申込書には，必ず下記の内容を記入してください．
  （1）応募理由
  （2）数学および情報科学に対する興味関心
- 申込後に，対面あるいはオンラインで面談を実施する予定です．

何か質問があれば，気軽にメールにてご連絡ください．

E-mail: izunaga<at>econ.kyushu-u.ac.jp

経済工学演習　　（　李　文　ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		**講義題目**	データで読む現代社会と社会経済の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		**授業科目ｺｰﾄﾞ**		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	**担当教員名**	李　文	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし 「計量経済学」を履修していることが望ましいですが、履修がない場合でも、基礎から指導しますので、データ分析に対する強い学習意欲があれば応募可能です。		キーワード	社会経済データ分析／実証研究／データサイエンス	
全体の教育目標	本ゼミでは、社会経済データを用いた実証分析を通じて、論理的思考力およびデータリテラシーの向上を図ることを目的とする。さらに、グループ発表やディスカッションを通じて、他者と協働しながら問題を発見・検証・解決する能力を養う。また、必要に応じて英語文献や海外の研究事例を取り上げ、学生が自然に国際的な視点を身につけられるようにする。		個別の学習目標	経済データを整理・分析するための基本的なスキル（R などの計量ソフトの操作を含む）を身につける。 先行研究や統計資料を批判的に読み、自らの関心に基づいた研究課題を設定できるようにする。 分析結果を論理的かつわかりやすくまとめ、発表・討論を通じて表現力と説明力を高める。	

授業の概要
本ゼミでは、社会経済データを用いた実証研究を行う。学生各自が関心のあるテーマ（例：社会移動・教育リターン・労働参加・ジェンダー格差など）を設定し、Rを用いて統計的手法を用いた実証分析を実践する。3・4年合同で実施し、3年次は基礎的な分析手法と文献輪読を中心に、4年次は卒業論文の作成を中心に進める。

授業計画
第１回　　ガイダンス・ゼミの進め方とゼミでの研究について
第２～４回　　輪読とディスカッション
第５～１０回　データ収集・分析演習
第11～15回　発表・フィードバック

授業の進め方
学生主体の発表・討論形式で進める。各自が設定したテーマについて分析を行い、結果を報告・共有しながら理解を深める。教員は方法論やデータ処理のサポートを行う。
プログラミング経験がなくても、基礎から段階的に指導する。

教科書及び参考図書
特定の教科書は指定しないが、必要に応じて以下の文献を参考図書として用いる。

アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2020）『絶望を希望に変える経済学：社会の重大問題をどう解決するか』日本経済新聞出版.

	有賀友紀・大橋俊介（2021）『R と Python で学ぶ［実践的］データサイエンス&機械学習【増補改訂版】』技術評論社. 江崎貴裕（2020）『分析者のためのデータ解釈学入門：データの本質をとらえる技術』SB クリエイティブ. Hadley Wickham・Mine Çetinkaya-Rundel・Garrett Grolemund（2024）『R ではじめるデータサイエンス　第 2 版』大橋真也訳，オライリー・ジャパン.
試験・成績評価の方法等 平常点（出席・発表・討論への貢献）と論文・最終発表を総合的に評価する。	**その他** 演習参加申込を行い、受講を認められた学生のみ登録できる。

ゼミの企画、その他特記事項

本ゼミでは、ゼミ生相互の協働を重視し、意見交換やグループワークを通じて互いに学び合う環境の形成を図る。必要に応じて発表練習会やゼミ合宿を実施する場合がある。また、学期の節目には懇親会等を通じて親睦を深める機会を設ける。

応募に当たっての注意

ゼミ説明会は**参加必須**。
やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に担当教員へメールで連絡すること。
「（連絡先）li.wen.209@m.kyushu-u.ac.jp」
就職活動や他授業との重複で参加できない場合は、個別に対応する。

なお、必要に応じて選抜を行う。選抜は、申込書に記載されたデータ分析への意欲、関心のあるテーマ、およびこれまでの学業成績（GPA など）に加え、説明会や個別面談等での内容を総合的に判断して行う。